

体育学学位プログラム(博士前期課程)

領域科目(体育・スポーツ学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP7A1	体育・スポーツ哲学演習I	2	3.0	1	通年	随時	坂本 拓弥, 深澤 浩洋	体育哲学およびスポーツ哲学における研究方法について理解を深め、文章の解釈力や洞察力の涵養を目指す。併せて、修士論文のテーマを掘り下げ、研究計画として結実させる。関連文献の講読を行い、問題設定の仕方や研究方法論についての理解を深める。 演習の前半では、体育・スポーツ哲学の基礎的な文献を講読する。選定する文献は、受講者の研究テーマに基づいて定めるが、形而上学、実践学、倫理学、美学などの大枠に沿ったものとする。 後半では、受講者の研究テーマに対して、先行研究に当たる文献のテキストクリティークを行う。	対面
OATP7A2	体育・スポーツ哲学演習II	2	3.0	2	通年	随時	深澤 浩洋, 坂本 拓弥	体育哲学およびスポーツ哲学に関連する研究課題、問題群における理路や問題の背景等を理解し、受講者自身の問題意識を掘り下げ明確化することを目指す。 文献(論文や著書)のうち、受講者の研究テーマに関連するものについて、概要をまとめ、報告・議論を行う。それとともに、受講者自身のリサーチクエストとそれを解決する方法を探り、その方法に則って思索を深め、論じてゆく。 また、受講者同士でディスカッションを行い、説明力ならびに質問力を養う。	対面
OATP7B1	体育史・スポーツ人類学演習I	2	3.0	1	春C 春AB秋AB	随時 火5	大林 太郎, 田 暁 潔	自身の研究したいテーマに基づき、体育・スポーツ史およびスポーツ人類学(スポーツ国際開発学会)に関する論文を以下の学術雑誌あるいは学術書「スポーツ人類学研究(スポーツ人類学会機関誌)、スポーツ史研究(スポーツ史学会機関誌)、体育史研究(体育史学会機関誌)、体育学研究(日本体育学会機関誌)」から選び、その研究論文の内容、研究方法について検討する。 研究方法については、史料批判を含め文献研究の方法論について検討する。また特定の地域のスポーツ文化に関する参与観察の方法論についても考察し、それらについて発表してディスカッションする。より良い発表の方法についても修得する。	対面
OATP7B2	体育史・スポーツ人類学演習II	2	3.0	2	通年	随時	大林 太郎, 田 暁 潔	自身の修士論文のテーマを意識して、それに関連する体育・スポーツ史、スポーツ人類学およびスポーツ国際開発学会に関する論文を外国の学術雑誌や学術書から選び、その研究方法と論文の構成について検討する。諸外国の学術雑誌は主に「International Journal of Sport History」、「Journal of Sport for Development」の中から選択する。 これらを先行研究とし、その批判的なまとめを各自が作成して発表し、ディスカッションする。	対面(オンライン併用型)
OATP7C1	スポーツ社会学演習I	2	3.0	1	通年	随時	下竹 亮志	スポーツ社会学に関する専門文献、研究論文の講読を、スポーツ社会学を研究するための基本的能力を身に着ける。スポーツ、体育、舞踊そして伝統スポーツにおける身体の歴史と政治権力についての文献資料を用いる。また、フィールドワークを通して、スポーツ社会学の基本的な研究能力を向上させる。	対面(オンライン併用型) 対面とオンライン(同時双方向型)を併用する
OATP7C2	スポーツ社会学演習II	2	3.0	2	通年	随時	下竹 亮志	社会学の理論を基礎にしながら、スポーツ社会学を研究するための研究方法論について学習し、論文執筆を自主的、自立的に行っていく。その際、学生や教員との議論を繰り返し、応答の中で、自らの立ち位置と思考を深めていく。こうした演習を通して、研究力を向上させ、論文執筆を行う	対面(オンライン併用型) 対面とオンライン(同時双方向型)を併用する

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP7D1	武道学演習I	2	3.0	1	春AB秋AB秋C	水1 随時	酒井 利信, 大石 純子	武道学全体を鳥瞰的に把握し、武道史・武道思想に関する先行研究を精読することにより、武道学における新たな問題を設定して修士論文のテーマを決める。 具体的には中林信二『武道のすすめ』、源了圓『文化と人間形成』、相良亨『武士の思想』、寒川恒夫『日本武道と東洋思想』、前林清和『武道における身体と心』、酒井利信『刀剣の歴史と思想』などの研究成果に加え、日本武道学会発刊の『武道学研究』所収論文を精読し、武道学全体の動向を把握した上で、自らの問題意識を明確にする。	対面
OATP7D2	武道学演習II	2	3.0	2	通年	随時	酒井 利信, 大石 純子	武道史・武道思想に関する先行研究を精読することにより、武道学領域における研究方法論を学び、自らの修士論文テーマに適した方法論を確立する。 具体的には、中林信二『武道論考』、前林清和『近世日本武芸思想の研究』、酒井利信『刀剣の日本精神史的研究』、酒井利信編『武道研究の道標』『武道研究の最前線』などに加え、日本武道学会発刊の『武道学研究』所収論文を精読し、文献学手法を学ぶ。特に事例の収集の仕方および分類方法、さらに行間の読み方を身につける。	対面
OATP7E1	体育・スポーツ経営学演習I	2	3.0	1	春AB秋AB	金3,4 金3	醍醐 笑部, 姜 泰安	体育・スポーツ経営学に関する内外(外国は主にアメリカ合衆国を中心に)の文献を購読しながら、経営理論の動向及び方向性を検討する。 学校体育・大学スポーツのマネジメント、地域・コミュニティスポーツのマネジメント、スポーツマネジメントの研究手法に関する文献を中心にレビューし、わが国のスポーツ経営との比較考察を行う。 スポーツビジネス、プロスポーツ、スポーツマーケティングに関連する文献を中心にレビューし、海外におけるスポーツビジネスの変遷やトレンドを把握するとともに、今後の発展性について議論する。	対面
OATP7E2	体育・スポーツ経営学演習II	2	3.0	2	通年	随時	醍醐 笑部, 姜 泰安	体育・スポーツ経営をめぐるとのトピックスや具体的な経営課題を取り上げ、関連する文献や論文を収集するとともに、研究の視点や課題解決の方法について議論し、研究論文としてまとめる。 地域スポーツ、民間スポーツ施設、プロスポーツをめぐるとのマネジメント課題を特定化し、その課題に関する先行研究や資料を収集し研究課題や研究方法について議論する。 学校体育(主に運動部活動と教科体育)のマネジメント課題が、時々々の学習指導要領の改訂に伴ってどのように変容してきたのかを、文献に基づいて議論する。	対面(オンライン併用型)
OATP7F1	スポーツ政策学演習I	2	3.0	1	春AB秋AB	火4,5 火2	齋藤 健司, 成瀬 和弥	国内及び国外のスポーツ政策及びスポーツ政策研究に関する動向について調査検討し、スポーツ政策の実務的な課題を理解するとともに、スポーツ政策学に関する内外の文献を購読し理論的な認識を深める。スポーツ政策に関する特定の調査研究課題を議論し、決定した後、各自の課題に関して報告発表を行い、全体で議論する。また、関連する文献を選定し、概要をまとめ報告し、全体で当該文献の理論の検討及び批判を行い、議論する。	オンライン(対面併用型)
OATP7F2	スポーツ政策学演習II	2	3.0	2	通年	随時	齋藤 健司, 成瀬 和弥	スポーツ政策に関する各自の研究テーマに関する文献及び資料の収集・批判及び検討、研究方法論及び分析の枠組みの検討を行い、実際の調査研究の成果を発表し、議論を深める。まず、研究テーマに関する先行研究の検討、援用する研究方法・理論のレビューを行い、分析の枠組みとして応用可能か議論する。また、実際に選定した方法論に基づき、研究テーマに関する調査内容を発表し、議論する。	オンライン(対面併用型)
OATP7F3	スポーツ法学演習	2	2.0	1	春C秋C	火4,5 火1,2	齋藤 健司	国内及び国外のスポーツ法に関する動向を調査検討し、現状の認識を深めるとともに、スポーツ法学に関する文献資料を購読し、研究の方法や理論に関する理解を深める。スポーツ法に関する動向についていくつかのトピックスを紹介する。スポーツ法学に関する国内外の基本的な文献および資料の中から課題を選定し、報告発表を行い、全体で議論する。さらに、課題と関連する法学文献の理論内容を検討する。	オンライン(対面併用型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP7G1	スポーツ産業学演習I	2	3.0	1	春AB秋AB秋C	水1 水2,3	仲澤 眞, 嵯峨 寿	スポーツ産業研究に必要な理論や実務的な知見について学ぶとともに、当該領域の研究手法論について学習する。主要先行研究の解説、主要な研究方法論の解説、研究計画の立案についての指導を通して、学位論文の作成に必要な基礎的な内容の習得を目的とする。	対面(オンライン併用型)
OATP7G2	スポーツ産業学演習II	2	3.0	2	通年	随時	仲澤 眞, 嵯峨 寿	スポーツ産業研究に必要な理論や実務的な知見について学ぶとともに、研究テーマの設定、仮説の設定、研究方法論の検討、研究倫理の手続き、研究の独自性・意義、学位論文の作成に必要な実践的な内容を習得することを目的とする。	オンライン(対面併用型)
OATP7H1	体育科教育学演習I	2	3.0	1	秋C 春AB秋ABC	随時 水3	長谷川 悦示, 佐藤 貴弘, 宮崎 明世, 三田部 勇	体育の教科論、カリキュラム論、学習指導論、教師教育論に関する内外の文献を講読し、体育授業の学習指導論並びにその研究方法論について理解する。また、学校での校内授業研究に参加して、体育授業を分析・省察する視点について実習する。さらに学生が教師・生徒役を担当する模擬授業を利用して、授業の計画立案・実行・分析・省察の過程を通して学生が授業を発達させていくことを検証する。授業では、模擬授業等で収集した組織的観察データや授業省察データを活用して、統計手法や質的分析によって結果をまとめたり、ゲームパフォーマンス分析のためにStudioCode等による分析方法についても学修する。春・秋学期に数回の学校での授業研究を参観する機会がある。授業分析の演習については、授業参観ごとに実施する計画である。秋C学期については、つくば模擬授業の授業計画立案を課題とする。	オンライン(対面併用型)
OATP7H2	体育科教育学演習II	2	3.0	2	通年	随時	長谷川 悦示, 佐藤 貴弘, 宮崎 明世, 三田部 勇	体育科教育学の研究領域における学術論文を講読して、研究テーマの設定方法、先行研究のレビュー方法、研究における理論の選択、研究デザインの設定、データ収集の方法、データ分析の方法、結果のまとめ方、考察の進め方、さらに結論の書き方を学修して、最終的な修士論文を完成させる能力を身につける。 春学期においては、月曜日の午後の授業時間を基本として、毎週1回のゼミ形式で実施する。受講生は、研究論文を講読しながら、論文の背景となっている問題点と理論的な基盤を明確にして、研究デザインを具体的に構想する。研究方法に応じて教的データ並びに質的データの処理方法を決定して、修士論文研究に取り掛かる。秋学期においては、修士論文の進捗状況を随時、確認しながら、論文完成に向けて探求する。1ヶ月に1回程度、体育科教育学研究室での研究会(月曜17時から19時)において成果を発表して教員と所属学生からの意見交換を行う。	オンライン(対面併用型)
OATP7H3	体育授業観察分析演習	2	2.0	1	春AB	随時	長谷川 悦示	体育授業の観察法に関する基礎的知識を習得する。また、実際の授業を計画立案して観察法を分析し、その活用方法について理解することを学修する。 受講者はガイダンスにつづいて、数回の授業案検討会を行い、授業グループに分かれて教材研究、授業計画案を討議・作成し、模擬授業のリハーサルを行う。模擬授業は、筑波大学内体育施設(中央体育館等)で実施し、その後最終反省会を行う。 また、受講者はe-Learning授業評価システムを活用して模擬授業動画を視聴しながら授業省察を学修することを最終課題として学修する。	オンライン(同時双方向型)
OATP7J1	アダプテッド体育・スポーツ学演習I	2	3.0	1	春AB 秋AB 秋C	月1,2 随時 随時	齊藤 まゆみ, 澤江 幸則	アダプテッド・スポーツ科学に関する文献を講読するとともに、アダプテッド・スポーツ現場を体験し、研究の動向と課題について議論する。	対面
OATP7J2	アダプテッド体育・スポーツ学演習II	2	3.0	2	通年	随時	齊藤 まゆみ, 澤江 幸則	アダプテッド・スポーツ科学に関する文献を講読するとともに、アダプテッド・スポーツ現場を体験し、研究の動向と課題について議論し、アダプテッド体育・スポーツ学についての論文指導を行う。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP7K1	体育心理学演習I	2	3.0	1	通年	火4	國部 雅大, 雨宮 伶	体育心理学の研究法に関する講義と体験的学習を通して、スポーツ・体育心理学領域における研究の実際を知り、心理学的研究法に関する理解を深める。また、海外の文献を読んで実際の研究を理解し、各自の問題意識に基づいて研究計画を立てる。本演習を通して、スポーツ・体育心理学領域における諸問題を解決するための研究遂行能力の基礎を身につける。	対面
OATP7K2	体育心理学演習II	2	3.0	2	通年	随時	國部 雅大, 雨宮 伶	体育・スポーツ心理学関連の学術雑誌から関心のある掲載論文を受講生自身が探し出し、抄録を作成して発表し、研究課題等について討議する。本演習を通して、関連テーマの理解および研究論文作成の方法を学ぶ。また、修士論文作成に繋がるよう各自の研究課題を具体化し、実際に研究を遂行する取り組みを行う。	対面
OATP7K3	体育心理学実習	3	2.0	1	通年	火5	國部 雅大, 雨宮 伶	スポーツにおけるセルフコントロール、性格の診断法、知覚運動学習の基本的実験研究法を、実践・実験実習、データ分析、発表、レポート作成を通して学ぶ。スポーツ・体育心理学領域における実験、調査、観察などの研究法、およびメンタルトレーニングなどの介入法を実践的に学ぶことを目標とする。	対面
OATP7M1	体育・スポーツ学特別演習	2	3.0	2	通年	随時	体育・スポーツ学分野主任	社会人特別選抜入学学生で体育・スポーツ学分野の学生は、自身の所属する研究領域の演習IIの代わりに、この科目を履修することができる。スポーツに関する国内外の専門文献、研究資料などを講読し、それについてディスカッションを行う。スポーツに関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて学習し、基本的な研究力を身に着ける。自分自身のテーマを決定し、研究遂行するための基礎的能力を身に着ける。	対面
OATP7M2	体育・スポーツ学特別演習II	2	3.0	2	春AB	随時	体育・スポーツ学分野主任	年度途中で修了する体育・スポーツ学分野の学生は、領域科目の個別研究領域の演習IIの代わりに、この科目を履修する。スポーツに関する国内外の専門文献、研究資料などの講読し、それについてディスカッションを行う。スポーツに関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて深く学習し、研究力を向上させる。関連分野の研究成果について議論を深め、修士学位论文を作成する。自分自身のテーマを決定し、研究遂行する。	年度途中で修了予定者のみ履修可。 対面

領域科目(健康体力学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP8A1	健康教育学演習I	2	3.0	1	春AB秋ABC	応談	片岡 千恵, 門間 貴史	国内及び国外の健康教育に関する文献資料を講読することを通して、健康教育研究に関する動向を検討し、その理論や研究方法等の理解を深める。また、健康教育に関して、いくつかのトピックを紹介する。さらに、国内外の文献の中から課題を選定し、その報告・発表を行い、全体で議論する。本授業は、研究テーマの設定、仮説の設定、研究方法論の検討、研究倫理の手続き等、論文の作成に必要な基本的な内容を習得することを目的とする。	オンライン(対面併用型)
OATP8A2	健康教育学演習II	2	3.0	2	通年	随時	片岡 千恵, 門間 貴史	国内及び国外の健康教育に関する文献資料を講読することを通して、健康教育研究に関する動向を検討し、その理論や研究方法等の理解を深める。また、健康教育に関して、いくつかのトピックを紹介する。さらに、国内外の文献の中から課題を選定し、その報告・発表を行い、全体で議論を深める。本授業は、得られた結果の吟味、考察の論旨・構成等、論文の作成に必要な内容の理解を深め、実践的な能力を育成することを目的とする。	オンライン(対面併用型)
OATP8C1	運動生理学演習I	2	3.0	1	春AB秋AB	火2 火1,2	武政 徹, 藤井 直人	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環系の下記のキーワードに関連した最新情報を理解するために、研究論文等の議論や発表を行う。1年次対象である。 骨格筋系のキーワード: 分子運動生理学、筋肥大、筋持久力増強、筋萎縮、サプリメント、ヒトの実験系、動物実験系、培養骨格筋細胞、初代培養細胞、ミュータント、遺伝子、転写産物、蛋白質、シグナルカスケード 呼吸循環系のキーワード: 運動トレーニングによる呼吸循環系の適応、暑熱と低酸素に対する適応、水分調節	要相談

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP8C2	運動生理学演習II	2	3.0	2	通年	随時	武政 徹, 藤井 直人	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環系の下記のキーワードに関連した最新情報を理解するために、英文研究論文等の議論や発表を行う。 骨格筋系のキーワード:分子運動生理学、筋肥大、筋持久力増強、筋萎縮、サプリメント、ヒトの実験系、動物実験系、培養骨格筋細胞、初代培養細胞、ミュータント、遺伝子、転写産物、蛋白質、シグナルカスケード 呼吸循環系のキーワード:運動トレーニングによる呼吸循環系の適応、暑熱と低酸素に対する適応、水分調節	要相談
OATP8D1	運動生化学演習I	2	3.0	1	秋C 春AB秋ABC	随時 金6	岡本 正洋, 松井 崇	演習。運動生化学に関する国内外の専門書、文献、研究論文等を講読し、運動生化学の対象領域、基本概念、研究方法などを学習することによって研究に必要な基礎的能力を身に付ける。運動が身心に及ぼす影響とトレーニング効果に関して運動生化学の立場から理解を深め、健康や運動パフォーマンスの維持・増進のメカニズムを理解する。	対面
OATP8D2	運動生化学演習II	2	3.0	2	通年	随時	岡本 正洋, 松井 崇	演習。運動生化学に関する国内外の専門書、文献、研究論文等を講読し、運動生化学の対象領域、基本概念、研究方法などを学習することによって研究に必要な能力を向上させる。運動が身心に及ぼす影響とトレーニング効果に関して運動生化学の立場から理解を深め、健康や運動パフォーマンスの維持・増進のメカニズムを理解する。研究力を向上させ、修士論文を作成できるようにする。	対面
OATP8E1	運動栄養学演習I	2	3.0	1	春AB秋ABC	随時	麻見 直美, 下山 寛之	競技力を高めるための、および健康の維持増進のための食事とトレーニング、睡眠(休養)の組み立て方を理解するために、栄養(食生活)、身体活動(運動)・トレーニング、休養(睡眠)をメインkey wordsとする基礎研究で、主にエネルギー代謝、糖代謝、脂質代謝、たんぱく質代謝、骨代謝・カルシウム代謝、カルシウム以外のミネラル代謝、水分代謝に関連するスポーツ・運動栄養学領域の主に英語を使用言語とする最近の総説、原著論文等を精読し、その内容について議論する。	オンライン(同時双方向型)
OATP8E2	運動栄養学演習II	2	3.0	2	通年	随時	麻見 直美, 下山 寛之	競技力を高めるための、および健康の維持増進のための食事とトレーニング、睡眠(休養)の組み立て方とその実践法について学ぶために、栄養(食生活)、身体活動(運動)・トレーニング、休養(睡眠)をメインkey wordsとし、エネルギー補給法、Female Athlete Triadの予防・改善、貧血予防・改善、からだづくり、熱中症・脱水対策、体力・持久力の向上、食育・食生活改善に関連する実践的研究で、主に英語を使用言語とする最近の総説、原著論文等を精読し、その内容について議論する。	オンライン(同時双方向型)
OATP8F1	体力学演習I	2	3.0	1	通年	随時	小野 誠司, 鍋倉 賢治, 木塚 朝博, 榎本 靖士	体力科学、体力・運動能力、体力トレーニング、運動遊びなどに関する国内外の学術論文、解説、著書、マニュアルなどを参考に、体力学領域における文献研究、研究計画、研究方法について演習する。	オンライン(対面併用型)
OATP8F2	体力学演習II	2	3.0	2	通年	随時	小野 誠司, 木塚 朝博, 鍋倉 賢治, 榎本 靖士	体育科学に関する内外の学術論文を題材に討議を行い、体力学領域における科学的知見に関わる情報を収集し、文献研究の方法について演習する。	オンライン(対面併用型)
OATP8G1	健康増進学演習I	2	3.0	1	秋C 春AB秋ABC	随時 水6	大藏 倫博	人体の形態、運動機能、体力・運動能力等の発達・加齢変化に関する測定評価法、トレーニング法、統計解析法などに関する内外の文献を討議する。学習目標は、健康、体力の維持、増進に及ぼす運動の効果、加齢の影響などに関する国内外の文献を討議し、同時に修士論文の研究手法、内容について理解を深める。第1回~10回は成人を対象とした健康・体力に関する論文抄読、第11回~20回は運動と健康・体力に関する論文抄読、第21回~30回は身体活動と健康・体力に関する論文抄読をおこなう。	対面(オンライン併用型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP8G2	健康増進学演習II	2	3.0	2	通年	随時	大藏 倫博	修士論文作成における当該分野の関連知識と方法を修得する。学習目標は、健康、体力の維持、増進に及ぼす運動の効果、加齢の影響などに関する国内外の文献を討議し、同時に修士論文の研究手法、内容について理解を深める。第1回~10回は成人を対象とした健康・体力に関する論文抄読、第11回~20回は運動と健康・体力に関する論文抄読、第21回~30回は身体活動と健康・体力に関する論文抄読をおこなう。	オンライン(同時双方向型)
OATP8H1	体育測定評価学演習I	2	3.0	1	通年	随時	角田 憲治	体育測定評価に関する基礎的および先端的な研究手法を理解し修得する。各自の関心に応じた文献研究とフィールドワークを通して、当領域において各自が行う研究テーマの設定と、これを達成するための調査・測定の計画を練る。	対面
OATP8H2	体育測定評価学演習II	2	3.0	2	通年	随時	角田 憲治	体育測定評価領域において各自が設定した研究テーマについての調査・測定を行う。また、データ分析を通して得られた結果を基に論文を執筆する。	対面
OATP8J1	内科系スポーツ医学演習I	2	3.0	1	通年	木5	渡部 厚一, 中田由夫, 小崎 恵生, 久野 譜也	内科系スポーツ医学領域に関連する英語文献(研究論文)を抄読・紹介し、研究の背景、研究目的、研究方法、研究結果、研究結果の解釈、考察などについて討議することで、内科系スポーツ医学領域の研究についての基礎的な理解を深める。また、内科系スポーツ医学領域の研究論文を抄読・紹介することで、研究に関連する新たな情報を得ることも目標とする。さらに、英文論文を抄読・紹介することにより、英語力の向上を目指すとともに、英文論文の構成の基礎などについても学ぶ。	対面
OATP8J2	内科系スポーツ医学演習II	2	3.0	2	通年	随時	渡部 厚一, 中田由夫, 小崎 恵生, 久野 譜也	内科系スポーツ医学領域に関連する修士論文の作成に向けて、当該修士論文の研究に関する関連知識や研究方法論などを学習する。具体的には、修士論文の研究計画、研究の進捗状況、研究結果、研究結果の考察などについてプレゼンテーションを行い、これらについての討議を行う。これらのプロセスを経て、内科系スポーツ医学領域に関連した修士論文を作成することを目標とする。また、研究内容や研究結果などを伝えるプレゼンテーション能力や議論する能力についても身につけることを目指す。	対面
OATP8J3	スポーツ医学基礎論特講I	1	2.0	1・2				スポーツ医学(内科系)の基礎として、健康の維持・増進および疾患の予防・治療における運動の効果について解説する。	2024年度以前入学者対象。 2026年度開講せず。 対面 2027年度以降も開講せず。
OATP8J4	スポーツ医学基礎論特講I	1	1.0	1・2	春AB	月4	渡部 厚一, 中田由夫, 小崎 恵生, 菅澤 威仁	スポーツ医学(内科系)の基礎として、健康の維持・増進および疾患の予防・治療における運動の効果について解説する。	2025年以降入学者対象。 対面
OATP8K1	外科系スポーツ医学演習I	2	3.0	1	通年	随時	高橋 英幸, 竹村雅裕, 福田 崇, 井汲 彰, 眞下 苑子	スポーツ医学(外科系)に関する文献を読み、基礎知識を学び、研究テーマの設定に向け、先行研究論文を読み、まとめる力をつける。	対面
OATP8K2	外科系スポーツ医学演習II	2	3.0	2	通年	随時	高橋 英幸, 竹村雅裕, 福田 崇, 井汲 彰, 眞下 苑子	スポーツ医学(外科系)に関する文献を読み、専門的な知識を学び、修士論文執筆及び学会発表を進めるうえでの実践力を養う。	対面
OATP8K3	スポーツ医学基礎論特講II	1	1.0	1・2				運動による運動器の変化について、骨組織の形態、骨代謝と軟骨代謝の生化学マーカー、軟骨組織の3回に分けて解説する。いずれも自身や研究室で実験した結果を基にしており、運動負荷による変化をどのように把握できるかに重点を置いた構成としている。	2023年度以前入学者対象。 2026年度開講せず。 AT必修科目 2027年度以降も開講せず。
OATP8M1	スポーツバイオメカニクス演習I	2	3.0	1	春AB秋A 秋C	火6 火・木6	小池 関也, 佐渡夏紀, 藤井 範久	スポーツバイオメカニクスに関する国内外の文献を購読し、現在のスポーツバイオメカニクス分野の研究課題などについてディスカッションする。また、修士論文に関する実験・データ分析の進捗状況を学会形式で発表し、教員、同じ研究領域の大学院生とディスカッションを行うことで、研究を進めていく上での課題を明確にするとともに、スポーツバイオメカニクス領域に関する幅広い知見を身につけることを目標とする。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP8M2	スポーツバイオメカニクス演習II	2	3.0	2	通年	随時	小池 関也, 佐渡夏紀, 藤井 範久	修士論文作成に必要な国内外の文献を購読し、修士論文との関連性についてディスカッションする。データの分析結果に関する考察を学会形式で発表し、教員、同じ研究領域の大学院生とディスカッションを行うことで、できる限り客観的な考察を行う能力を身につけることを目標とする。また考察がまとまった段階においては、国内外の学会で研究発表を行い、学外のバイオメカニクス研究者からの意見についても積極的に取り入れるように指導する。	
OATP8M3	スポーツバイオメカニクス実験	3	2.0	1・2	秋ABC夏季休業中	随時	小池 関也, 佐渡夏紀, 藤井 範久	スポーツバイオメカニクスの研究手法、特に動作分析手法について実習するとともに、データのまとめ方を学習する。具体的には、高速度ビデオを用いた二次元および三次元動作解析、フォースプラットフォームを用いた地面反力測定を行う。次に、取得したデータをもとに、身体重心位置算出、関節角度算出などのキネマティクスの分析、関節トルクなどのキネティック的分析をプログラミング言語MATLABを用いて行う。さらに得られたデータに対して考察を行い、分析結果について学会形式で発表を行い、ディスカッションを通してバイオメカニクスの研究手法の習得を目標とする。	使用機材の関係で、人数を制限することがある。履修登録する前に、担当教員から受講許可をもらうこと。なお、受講希望者が5名未満の場合は開講しないことがある。
OATP8P1	応用解剖学演習I	2	3.0	1	通年	応談	平田 浩祐	応用解剖学に関して、解剖学及び機能形態学の知識に基づいた研究の組み立て方、実験の取り組み方等について、基礎的な指導を行うとともに、実際に予備的な実験を行う。これらと並行して、自身の修士論文に関連する文献を探索し、先行研究における不備な点、明らかになっていない点、あるいは相反する研究結果を見つけ出し、それらの解決に自身の修士論文がどのように貢献できるか考えさせ、その実践への糸口をつかむ。	対面
OATP8P2	応用解剖学演習II	2	3.0	2	通年	応談	平田 浩祐	「応用解剖学演習I」で得られた知見をもとに、修士論文の研究計画を詳細に決定し、それに従って実験、調査等を行う。また、修士論文の経過報告に対して、論文のまとめ方、プレゼンテーションの仕方について指導を行う。	対面
OATP8Q1	健康体力学特別演習	2	3.0	2	通年	随時	健康体力学分野主任	社会人特別選抜入学者で健康体力学分野の学生は、自身の所属する研究領域の演習IIの代わりに、この科目を履修することができる。	オンライン(オンデマンド型)
OATP8Q2	健康体力学特別演習II	2	3.0	2	春AB	随時	健康体力学分野主任	年度途中で修了する健康体力学分野の学生は、領域科目の個別研究領域の演習IIの代わりに、この科目を履修する。研究成果について議論を深め、修士学位論文を作成する。	年度途中で修了予定者のみ履修可。 オンライン(オンデマンド型)

領域科目(コーチング学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP9A1	コーチング論・トレーニング学演習I	2	3.0	1	春AB秋ABC	月4月3,4	前村 公彦, 木内敦詞, 河合 季信, 谷川 聡, 松元 剛, 中山 紗織	スポーツ・コーチング及びトレーニングに関する内外文献の抄読や実践を通して、研究方法などを習得し、科学的知見に基づくコーチング及びトレーニングの在り方を探求する。	対面
OATP9A2	コーチング論・トレーニング学演習II	2	3.0	2	通年	随時	前村 公彦, 松元剛, 河合 季信, 谷川 聡, 木内 敦詞, 中山 紗織	スポーツ・コーチング及びトレーニングに関して、より発展的な内容に関して、内外文献の抄読や実践を行い、研究方法を身につけ論文作成能力を養う。	対面
OATP9B1	スポーツ運動学演習I	2	3.0	1	春AB秋ABC	木3木3,4	中村 剛, 新竹 優子	演習Iでは以下の内容について専門文献の講読等を通じて学習し、専門的知識を身につける。また、スポーツ運動学の研究方法についての理解度を深める。いずれの教員の授業も、日本語、ドイツ語、また英語の専門文献読み発表し、議論を重ねる、というスタイルで授業をしていく。さらに学生には、常に、現場の目線とは何かについて問い続けていく。	対面
OATP9B2	スポーツ運動学演習II	2	3.0	2	通年	随時	中村 剛, 新竹 優子	スポーツ運動学演習Iの履修を前提として(内外の文献の講読による専門知識の習得)、毎週、個別に指導を行い、研究論文(修士論文)の構想の練り方、組み立て方、オリジナルな視点の立て方など論文指導を行う。	対面(オンライン併用型)
OATP9C1	体操コーチング論演習I	2	3.0	1	春AB秋ABC	水2水1,2	本谷 聡	体操の運動方法ならびにコーチングに関する内外の文献や資料を題材として、ねらい、対象、運動方法、指導法、評価などについて理解を深めるとともに、討議を通じて、体操コーチングに関する論理的な思考を身につける。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP9C2	体操コーチング論演習Ⅰ	2	3.0	2	通年	随時	本谷 聡	子どもの体力低下・二極化や超高齢社会の到来など、社会的な諸問題について、国内外の文献・資料を調査し、課題を解決するために有用な体操のプログラムやコーチングに関して論文指導を行う。	対面
OATP9D1	体操競技コーチング論演習Ⅰ	2	3.0	1	春AB秋AB秋C	木3 木3,4	渡辺 良夫, 齋藤卓, 金谷 麻理子	体操競技の男子6種目(ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒)、女子4種目(平均台、跳馬、段違い平行棒、ゆか)について、それぞれの種目の発達史、種目特性、技の体系、技術およびコーチング法、ルール等について、国内外の文献や資料の講読と討議を行い、体操競技の指導者としての専門的知識を身に着ける。資料として、主に、現行採点規則の原語版、ドイツ語圏および英語圏の専門文献、日本国内の研究論文などを用いる。	対面
OATP9D2	体操競技コーチング論演習Ⅱ	2	3.0	2	通年	随時	渡辺 良夫, 齋藤卓, 金谷 麻理子	体操競技コーチング論の基礎的な理論領域を体系的に理解し、研究法について学習する。体操競技の競技特性、技術、体系論、安全確保と指導法などについての国内外の研究論文を講読し、討議を行うことで専門性を養う。発生運動学における発生分析の方法論と、構造分析論における始原論的分析論、体系論的分析論、地平論的分析論を体操競技コーチング論領域で用いるための方法について学習し、修士論文を作成するために必要な専門的知識を養い修士論文を作成する。	対面
OATP9E1	陸上競技コーチング論演習Ⅰ	2	3.0	1	春AB秋AB秋C	木3 木3 金4,5	大山 卞 圭悟, 木越 清信	陸上競技の技術、トレーニング、指導法の研究について実践し、データ分析、プレゼンテーションについて学ぶ。	オンライン(対面併用型)
OATP9E2	陸上競技コーチング論演習Ⅱ	2	3.0	2	春AB秋AB春C秋C	随時	大山 卞 圭悟, 木越 清信	陸上競技種目の技術特性、指導法やトレーニング法について概説し、実験データの活用、実践への適用について学ぶ。	オンライン(対面併用型)
OATP9F1	水泳競技コーチング論演習Ⅰ	2	3.0	1	春AB秋AB秋C	月4 月3,4	仙石 泰雄, 角川 隆明, 高木 英樹	水泳競技(競泳・水球・シンクロ・飛込み)における競技レベルに応じた技術(各種泳法)、技術トレーニング、体カトレーニング、指導法について、国内外の文献をもとにし、現場におけるコーチングに貢献する研究課題を抽出し、検討する。また、その研究課題を解決する研究方法論について多角的に討議し、修士論文の作成に向けて必要な基礎的知識の獲得を目指す。	オンライン(同時双方向型)
OATP9F2	水泳競技コーチング論演習Ⅱ	2	3.0	2	通年	随時	仙石 泰雄, 高木 英樹, 角川 隆明	水泳競技(競泳・水球・シンクロ・飛込み)における競技レベルに応じた技術(各種泳法)、技術トレーニング、体カトレーニング、指導法について、国内外の文献研究から得られた知見をもとに、コーチング場面における実践的な展開を想定したグループディスカッションを行い、更に修士論文作成に向けた具体的な方法論等について検討を行う。また、研究内容や研究結果などを伝えるプレゼンテーション能力についても身につけることを目指す。	オンライン(同時双方向型)
OATP9G1	バレーボールコーチング論演習Ⅰ	2	3.0	1	春AB秋AB秋C	金3 金3,4	中西 康己, 秋山 央	国内外の専門文献や研究書を講読し、バレーボールのルールや競技特性、基本的な技術、基本的な個人戦術・グループ戦術・チーム戦術、バレーボール競技者に必要な一般的な体力要素、ケガを予防するためのトレーニング方法、基礎的なゲーム分析の視点とその方法、競技力を定着させるための指導の方法などについて学習する。また、研究方法について学習し、修士論文を作成するための基礎的資質を高める。	対面
OATP9G2	バレーボールコーチング論演習Ⅱ	2	3.0	2	通年	随時	中西 康己, 秋山 央	国内外の専門文献や研究書を講読し、バレーボールの発達史、応用技術、応用的な個人戦術・グループ戦術・チーム戦術とその発展、バレーボール競技者に必要な特異的体力要素、パフォーマンスを向上させるためのトレーニング方法、分析ソフトを用いた応用的ゲーム分析方法、競技力を向上させるための指導の方法などについて理解を深める。また、バレーボールコーチング論の研究法について理解し、修士論文を作成する。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP9H1	バスケットボールコーチング論演習I	2	3.0	1	春AB秋AB秋C	水2 水1,2	池田 英治	複雑なバスケットボールの競技特性について言及する最新の内外のスポーツ科学・トレーニング科学等の諸々の知見を援用しながら、バスケットボール競技のコーチングを、(1) 競技力の構造、(2) コーチの思想・倫理論(フィロソフィー、ディシプリン)、(3) チームマネジメント論、(4) 体力論(エネルギー系体力の内実)、(5) トレーニング論I(期分け、トレーニング構成)、(6) トレーニング論II(最適トレーニング)、(7) 技術・戦術論I(基礎技術、個人戦術)、(8) 技術・戦術論II(グループ戦術、チーム戦術)、(9) 学習・指導論(練習の多様性、文脈干渉効果)などの多角的視点から検討する。	対面(オンライン併用型)
OATP9H2	バスケットボールコーチング論演習II	2	3.0	2	通年	応談	池田 英治	修士論文の作成に必要な知識と技能を学修する。具体的には、バスケットボールコーチングに関する各自が設定した研究テーマについての発表・討議を行うことでプレゼンテーション能力を高め、また、統計解析やアカデミック・ライティングの方法を研究を進める中で実践的に学修する。	対面(オンライン併用型)
OATP9J1	ハンドボールコーチング論演習I	2	3.0	1	春AB秋AB秋C	木2 木3,4	會田 宏, 藤本 元, 山田 永子	国内外における文献の精読を通して、ハンドボールのコーチングに関する基礎理論および応用理論について学習する。	対面
OATP9J2	ハンドボールコーチング論演習II	2	3.0	2	通年	随時	會田 宏, 山田 永子, 藤本 元	ハンドボールのコーチングに関する研究方法論について学習し、修士論文の作成に必要な知識と技能を養成する。	対面
OATP9K1	サッカーコーチング論演習I	2	3.0	1	春AB秋AB秋C	木3 木3,4	中山 雅雄, 小井土 正亮	サッカーコーチに求められる資質である論理的思考とコミュニケーション能力を高めることと、修士論文作成に向けての科学的手法によるサッカーのコーチングに関する問題解決能力を高める。サッカーの指導に必要な具体的な問題を自ら設定し、それに関わる内外の文献資料を広く収集する。そして、自らのテーマに関して口頭で発表し、発言能力を高める。	対面
OATP9K2	サッカーコーチング論演習II	2	3.0	2	通年	随時	中山 雅雄, 小井土 正亮	自らが設定したサッカーのコーチングに関するチームへのアプローチの仕方や、研究の進捗について、定期的に発表と討議を繰り返し、各種の文献を読み解き専門的理解を深める。研究の実践を通して論文指導をおこなう。	対面
OATP9M1	ラグビーコーチング論演習I	2	3.0	1	春AB秋AB秋C	火2 火・木2	古川 拓生	授業は演習形式とし、ラグビーコーチングに関する様々な文献・映像の検討と討議を通して、基本的な知識の習得と各自の研究課題の明確化を図ることを目的とする。授業では、最初に様々なゲームパフォーマンス分析の手法について学ぶとともに、実際の分析手法を用いてゲーム構造に関する理解を深める。次に分析ツールを利用したデータ収集と解析を行い、パフォーマンスの評価法について学習する。最後に先行研究を元に各自で設定したコーチングやトレーニングに関する課題に対してデータの収集と検討を行い、実践知の習得を図る。	対面(オンライン併用型)
OATP9M2	ラグビーコーチング論演習II	2	3.0	2	通年	随時	古川 拓生	授業は演習形式とし、ラグビーのコーチングやトレーニングに関する研究の実践を通じ、研究に関する計画上および実施上の問題の検討と討議をとおして問題の解決と研究の進展を図ることを目的とする。授業では、各自が設定した研究テーマに対し指導・助言を行い、データ分析やアカデミック・ライティング、プレゼンテーションの力を高め、最終的には修士論文の作成に必要な知識と技能を習得する。	対面(オンライン併用型)
OATP9N1	ラケットバットスポーツコーチング論演習I	2	3.0	1	春AB秋AB秋C	火3 火3,4	川村 卓, 吹田 真士, 奈良 隆章, 三橋 大輔, 野中 由紀	野球・卓球・テニス・バドミントンなどそれぞれの種目固有の特性を学ぶ。ラケットバットスポーツの歴史・指導方法そして研究に関してその意義と現状との差異に関して集団で討議し、また、発育段階における問題点を明らかにして、体系的な指導方法に関してモデルの構築を行う。それを通じてコーチングと研究遂行する基礎的資質を身に着ける。	対面
OATP9N2	ラケットバットスポーツコーチング論演習II	2	3.0	2	通年	随時	川村 卓, 吹田 真士, 奈良 隆章, 三橋 大輔, 野中 由紀	野球・卓球・テニス・バドミントンなどそれぞれの種目固有の特性について理解を深める。ラケットバットスポーツに関して体力・技術・心理などの視点から、さらに戦略・戦術・戦法などの視点から従来の方法にとらわれないコーチング及び指導法を討議し、修士論文の作成に必要な能力を向上させる。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP9P1	柔道コーチング論演習Ⅰ	2	3.0	1	春AB秋AB 秋C	木2 木1,2	岡田 弘隆, 増地 克之, 平岡 拓晃	授業は演習形式とし、柔道のコーチングに関する文献・資料を題材として、その現状を討議し、問題点を探りながら基本的な知識の習得と各自の研究課題の明確化を図ることを目的とする。授業はオムニバス方式とし、先行研究を元に各自で設定したコーチングやトレーニングに関する課題に対してデータの収集と検討を行う。	対面
OATP9P2	柔道コーチング論演習Ⅱ	2	3.0	2	通年	随時	岡田 弘隆, 増地 克之	修士論文の作成に向けて、柔道のコーチングに関する研究方法論について学習し、専門的知識を深め、修士論文の作成に必要な知識と技能を養成することを目的とする。また、データ分析およびプレゼンテーションについて学ぶ。	対面
OATP9P3	柔道コーチング論実習「形」	3	1.0	1・2	春AB 秋C	水1 金1,2	増地 克之	柔道の七つの形である(投の形、固の形、柔の形、極の形、講道館護身術、五の形、古式の形)を行う。投の形と固の形は合わせて乱取の形ともいわれ、それぞれ代表的な技15本を学ぶ。柔の形は、柔の理によって、攻撃防御の方法を緩やかな動作で行う。極の形は、真剣勝負の形とも称され、柔道の技法を駆使した実践的な形で、俊敏な体さばきと効果的な極め方を学ぶ。講道館護身術は、新しい時代にふさわしい表現をとり、武器を持って襲いかかる等の諸暴力などを予想し、身を守る最も代表的な防御法について学ぶ。五の形と古式の形は技を離れて表現され、芸術の世界にひたらせる形である。 また、段の取得および形競技大会への参加まで視野に入れ行う。	対面
OATP9Q1	剣道コーチング論演習Ⅰ	2	3.0	1	春AB 秋AB 秋C	金3 随時 金3,4	鍋山 隆弘, 有田 祐二	研究論文作成のために必要な剣道の試合・審判・形(型)・指導法についての素養を身につける。	対面
OATP9Q2	剣道コーチング論演習Ⅱ	2	3.0	2	通年	随時	鍋山 隆弘, 有田 祐二	剣道全般に関して、研究の実践、指導を行い、方法論と関連知識等について論文指導を行なう。	対面
OATP9R1	弓道コーチング論演習Ⅰ	2	3.0	1	春AB 秋AB 秋C	水1 水2 水1,2	松尾 牧則	弓道に関する文献(古伝書を含む)を読み下し、弓術・弓具・指導法等に関する理解を深める。伝統的弓道とその指導法を理解し、現代における基本的指導のあり方を理解・修得する。弓道における「五射六科」の内容を学習し、その理解と現代的応用方法について考え、論議する。年齢や経験の違う対象者に対する弓道指導の留意点について理解する。安全で効果的に弓道指導を行う上での現代的課題と弓道指導の将来展望を俯瞰できる能力と実践力を養う。	対面
OATP9R2	弓道コーチング論演習Ⅱ	2	3.0	2	通年	随時	松尾 牧則	弓道指導に関する文献、古文書、研究論文等により、「五射六科」のうち、弓器・弓工に関する理解を深めるとともに、その実践を試みることを通じて現代的な課題を探っていく。また、伝統的弓道指導法、現代的弓道指導法に関して理解し、その違いと課題を探っていく。指導法に関して様々な観点を見だし、新たな指導法の可能性を考えていく。弓道指導法、弓具管理法に関する先行研究を理解し、現在の弓道コーチングのあり方、弓道コーチングの将来を展望する。	対面
OATP9S1	野外運動論演習Ⅰ	2	3.0	1	秋C 春AB秋 ABC	随時 火4	坂本 昭裕, 渡邊 仁	本授業では、野外運動における自然と文化、人間理解等について、基本的な知識を修得し、理解を深めることを目標に、2名の教員によるオムニバス方式により、授業を実施する。	対面
OATP9S2	野外運動論演習Ⅱ	2	3.0	2	通年	随時	坂本 昭裕, 渡邊 仁	野外運動・野外教育分野における修士論文の作成に向けて、まず、興味関心のある実践や研究について国内外の動向を把握し、自分自身の研究課題を探索する。具体的には、関連する先行研究についてレビューし、研究課題あるいは、テーマの設定を行う。次に、研究・調査を計画し、研究課題を解決するための適切な研究方法論について学修し関連の知識を得る。これらについて、毎回プレゼンテーションを行い、研究を進める上での諸問題について討議する。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP9S3	野外運動論実習	2	2.0	1	春AB 通年	月5 随時	坂本 昭裕, 渡邊 仁	本時においては、野外教育に関連した外部団体と連携し、野外教育プログラムについて、1)企画・立案、2)実施・運営、3)評価に関与することを通して、総合的に野外教育事業をマネジメントする能力を修得することがねらいである。具体的には、企画では、野外教育事業の対象、目的、プログラム、組織について立案することを実習する。運営では、実地踏査、参加者の募集、参加者への指導を実践する。さらに評価においては、報告書等の作成を通じて振り返りを行う。	対面
OATP9T1	舞踊論演習I	2	3.0	1	春AB秋A 秋C	火4 火3,4	平山 素子, 寺山 由美	舞踊(ダンス)分野に関する国内・国外の文献、資料を中心に近年の舞踊論における研究の動向と諸問題について学習するとともに、舞踊論の研究手法論について理解を深める。さらに、研究対象を明確にするための考察を行う。	対面 舞踊領域の所属学生に限る。要相談。
OATP9T2	舞踊論演習II	2	3.0	2	通年	随時	寺山 由美, 平山 素子	舞踊論・舞踊教育学分野における修士論文の作成に向けて、国内外の舞踊に関する論文や研究資料を参考に研究動向を把握しながら、論文作成のための方法論と関連知識を身につける。その上で、自らの修士論文の研究課題を選定し、関連する先行研究の検討を行う。さらに、研究目的や研究方法を明確にして研究を進め、修士論文として研究成果をまとめる。また、研究発表の方法やプレゼンテーションの方法も習得し、他者へ自分の考えを伝達する能力を養成する。	要相談
OATP9T3	舞踊表現技術実習	2	1.0	1	春AB 秋AB	木4 水2	平山 素子	コンテンポラリーダンスを扱う。呼吸、フロアを使ったムーブメントやカウンターバランスなどの動きの理論を体験し、音楽、動きのコンセプトなど発想を広げる。個々が多様な身体表現の可能性を探る機会を促す。	対面 要相談
OATP9U1	コーチング学特別演習	2	3.0	2	通年	随時	コーチング学分野 主任	社会人特別選抜入学学生でコーチング分野の学生は、自身の所属する研究領域の演習IIの代わりに、この科目を履修することができる。スポーツに関する国内外の専門文献、研究資料などの講読し、それについてディスカッションを行う。コーチング学分野に関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて学習し、基本的な研究力を身に付ける。自分自身のテーマを決定し、研究遂行するための基礎的能力を身に付ける。	要相談
OATP9U2	コーチング学特別演習II	2	3.0	2	春AB	随時	コーチング学分野 主任	年度途中で修了するコーチング学分野の学生は、領域科目の個別研究領域の演習IIの代わりに、この科目を履修する。専門文献、研究資料などの講読し、それについてディスカッションを行う。スポーツに関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて深く理解し、研究力を向上させる。関連分野の研究成果について議論することによって自分自身のテーマを決定し、修士学位論文を作成する。	年度途中で修了予定者のみ履修可 要相談

系列科目(スポーツ文化・経営政策)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OAS0201	武道学	1	1.0	1・2	春AB	NT	酒井 利信	武道は日本の歴史の中で育まれてきた固有の運動文化であり、日本文化のアイデンティティーを自覚するには必須の学習課題である。本授業では、特に刀剣思想を題材とし、東アジアを視野に入れた日本精神史としての武道を学ぶ。	オンライン(オンデマンド型)
OATP101	スポーツ経営学	1	1.0	1	春AB	木2	姜 泰安	スポーツ経営学の基礎から応用までを体系的に整理し、スポーツ産業の構造を理解し、組織運営・マーケティング・ガバナンス・地域スポーツマネジメント・パラスポーツやeスポーツの展開など多様なテーマを検討する。スポーツ組織を取り巻くステークホルダーの利害や社会的価値を分析し、持続可能なスポーツビジネスを構想し実践するために必要な視点とマネジメント能力を育成する。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP102	体育・スポーツ哲学	1	1.0	1	秋B	集中	深澤 浩洋	体育ならびにスポーツの概念、現状、背景となる思想・社会的状況について洞察する力を養うことを目指す。体育・スポーツ概念の鍵の一つである身体の捉え方や身体を経験をめぐって、体育哲学とスポーツ哲学のそれぞれのスタンスから講義を行う。 スポーツに関しては、身体的契機、知的契機、感性的契機の三契機から、また、体育に関しては、関係性、重層性、超越性という三つの視点から論ずる。 こうした基本的な考え方を踏まえつつ、体育・スポーツに関する現代の特徴を取り上げ、哲学的に考察、ディスカッションする。	オンライン(対面併用型)
OATP103	スポーツ史学	1	1.0	1	秋B	集中	大林 太郎	古代社会における「スポーツ」の起源から近代スポーツの誕生と発展に関する通史的知見を学び、ひいては史実を根拠とした現代の体育・スポーツ界における諸課題へのアプローチを試みる。体育・スポーツに関する歴史学の理論と実践に係る研究方法論についても取り上げる。	対面
OATP105	スポーツ産業学	1	1.0	1・2	春AB	木4	仲澤 眞	レジャー・スポーツ産業を対象に人文・社会科学的な視点から検討し、レジャー・スポーツ産業に関する基本的な知見を学習するとともに、当該領域における当面の問題を明らかにし、基本的研究課題を理解する。	オンライン(同時双方向型)
OATP106	スポーツ社会学	1	1.0	1・2	春AB	月4	下竹 亮志	現代社会におけるスポーツイベントや学校運動部の意義や意味について、消費社会、メディア、及び都市等の観点から議論を行い、同時に社会学の概念や方法論を学ぶことで、スポーツの位置や意味について、批判的な説明ができるようになることを目的とする。	対面
OATP107	スポーツ政策学	1	1.0	1	春AB	水3	齋藤 健司, 成瀬 和弥	スポーツ政策の現状と課題に対する理解を深めるとともに、スポーツ政策学の理論と視座を考える。	対面
OATP110	フェアプレイ論	1	1.0	1・2	秋C	火5,6	深澤 浩洋	フェアネスの歴史的概観やフェアプレイを奨励する運動を踏まえ、フェアプレイが主張される意味について、複数の価値観、道徳観から考察する。また、フェアプレイを奨励する運動に言及する。実際にフェアプレイに徹するスポーツパーソンを育成するにはどうしたらよいのか、どのようにフェアプレイ教育を展開していけばよいのかということについて考察し、自分なりの見解を論理的に展開できることを目標とする。 フェアネスの概念、スポーツのルールとエトス、フェアプレイの歴史、フェアプレイをめぐる問題の語られ方(個人と組織)、アンフェアの背景、フェアプレイキャンペーン、フェアプレイ奨励の方策、フェアプレイ教育の構想	対面(オンライン併用型)
OATP111	身体文化論	1	1.0	1・2	春C	集中	深澤 浩洋, 田 暁 潔	伝統文化、体操、体育、スポーツなどを具体的に取り上げながら、文化的社会的に構築される身体と身体観について理解を深める。文化社会学、歴史学、哲学を基礎としながら領域を越えて議論し、身体文化に対するアプローチを切り開く。	対面
OATP113	スポーツ法学	1	1.0	1	秋AB	火3	齋藤 健司	スポーツに関する基本法令、判例、法制度及び法的諸問題について概説し、スポーツ法学に関する理論、スポーツ法の体系及びスポーツ法政策の基礎知識を学ぶ。 スポーツ法の体系、スポーツ基本法、スポーツ権、スポーツ仲裁法、アンチ・ドーピング法、体育に関する法令、スポーツの知的財産権、スポーツ放送法、プロスポーツ関連法、スポーツビジネス関連法、選手契約などを解説し、議論する。	対面
OATP114	スポーツ行政学	1	1.0	1	春AB	月6	成瀬 和弥	行政学の視点から、日本のスポーツを検討し、中央政府や地方政府の組織、制度及び政策などについて、その基礎知識を学ぶ。日本のスポーツ行政過程の構造や機能について理解を深める。また、授業の後半(5回目以降)にはグループディスカッションを行う。グループごとに日本のスポーツ問題を検討し、仮説を設定してその問題を解決するための方策を立案する。グループごとに、その内容を発表し、他のグループとディスカッションを行う。	対面
OATP115	スポーツビジネス論	1	1.0	1・2	秋AB	木4	仲澤 眞, 嵯峨 寿	(1)プロスポーツの運営や(2)スポーツメーカーのブランディング、(3)スポーツツーリズムなどを事例に、スポーツとビジネスの関係について理解を深めていく講義である。	対面(オンライン併用型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP116	スポーツを通じた開発論	1	1.0	1				国際社会では、複雑に相互依存が深化する世界構造の下で、社会課題を改善するために、「地域・地球規模の連携」、「社会関係資本の構築」、「国際的課題の改善」を求める「スポーツを通じた開発」或は「開発と平和のためのスポーツ」行動が地球規模的に展開され始めている。 本講座では、国内外の課題を探求し、その課題に対して採られる「スポーツを通じた開発」の事例を各専門領域の理論によって読み解くために議論を交わしながら検討する。 (1) 既存研究によるケースの批評的検討(3回)、 (2) 課題的検討(2回)、(3) 方法論的検討(2回)、 (4) 実践的検討(3回)	2026年度開講せず。 対面 2027年度以降も開講せず。
OATP117	スポーツメディア論	1	1.0	1・2	秋BC	集中	下竹 亮志, 山本 敦久	現代社会におけるスポーツイベントとメディアの親和性について、その歴史について学習し、映像メディアを介して表象化される人種、ジェンダー、ナショナル리티の諸問題について理解を深める。 1. スポーツイベントの成立構造について、スポーツの組織と連盟、メディア、資本主義企業、そして代理店の関係から説明することができるようにする。 2. 身体パフォーマンスをもとにした集会的想像力と表象、及びその文化政治について例をあげながら説明することができるようにする。 3. 人間とメディアとの関係について、歴史を踏まえて、例をあげながら説明することができるようにする。	対面
OATP118	スポーツ文化・経営政策共通実習	2	1.0	1・2	通年	随時	仲澤 真, 齋藤 健司, 深澤 浩洋	スポーツ文化・経営政策に関連する諸事象について問題発見・課題解決能力の涵養を図り、生きた知識を身につけることを目的とする。各自が選択した担当教員の指導の下、スポーツ関連施設や組織等で行われている活動に触れたり調査を行ったりする。	担当教員の元へ赴き、説明を受け、指導教員を決めること。スポーツ文化・経営政策系列必修 対面(オンライン併用型)
OATP131	スポーツ文化・経営政策キャリア形成支援実習(インターンシップ含む)春	3	1.0	1・2	春C夏季休業中	随時	インターンシップ担当教員	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、行政機関、スポーツ施設など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「スポーツ文化・経営政策インターンシップ」と同一。
OATP132	スポーツ文化・経営政策キャリア形成支援実習(インターンシップ含む)秋	3	1.0	1	秋C春季休業中	随時	インターンシップ担当教員	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、行政機関、スポーツ施設など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「スポーツ文化・経営政策インターンシップ」と同一。
OATP141	地域スポーツ経営論	1	1.0	1・2				地域スポーツをめぐる政策動向とその背景をふまえて、地域スポーツクラブの現代的意義とその組織化の方法論について理解する。まず、地域スポーツ経営領域の特質と固有のミッションを基準としながら、わが国におけるクラブ育成状況やクラブマネジメントの実態を評価する。次に、この現状評価とクラブ理念型との乖離を埋めるクラブの戦略的課題を特定化する。さらに、経営課題を克服するための組織マネジメントの要点を、いくつかのクラブ先進事例から読み解くことで、コミュニティ振興とスポーツ振興の同時達成の方法を解説する。	西暦奇数年開講。 対面
OATP142	スポーツリスクマネジメント論	1	1.0	1	秋AB	火4	齋藤 健司	スポーツ活動におけるリスクマネジメント理論の応用を検討するとともに、スポーツ事故の法的責任、安全対策および事故防止策についての理解を深める。 リスクマネジメントの枠組み、プロセスなどの理論とそのスポーツへの応用、体育・スポーツ事故の統計データと事故原因、突然死、頭部外傷、脳震盪、熱中症、溺水事故、自然災害などの原因と対策、中止基準、健康調査、スポーツ事故の法的責任、スポーツ施設の法的責任、免責同意書等の法的防御書類などについて、事故事例及び判例を交えて解説する。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP143	スポーツマーケティング論	1	1.0	1・2	春C	集中	醍醐 笑部	スポーツマーケティングの目的、方法に関する基礎理論を理解するとともに、商業スポーツ施設経営やスポーツイベント経営など具体的なスポーツ経営を事例にした検討を通して、実践的な考え方を養う。	オンライン(オンデマンド型)

系列科目(健康・スポーツ教育)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP201	体育科学学習指導論	1	1.0	1	秋AB	月2	長谷川 悦示, 宮崎明世, 三田部 勇	良質な体育授業を実施するために必要な学習指導上の諸条件とそれを具体化していくために必要な教員の資質について模擬授業の立案計画と実施による直接的な実践体験を通して学修する。体育科教育に必要とされる学習指導方略、学習指導過程、学習組織、学習指導モデルなど専門職知識と技能について理解を深める。 受講生は複数の授業者グループごとで、授業計画を立案し、教師役・生徒役・観察者を相互に役割分担して模擬授業を実施する。体育授業を分析する方法と授業を省察する能力の向上をねらって、受講者はe-Learningによる授業評価システムを用いてビデオ収録された授業映像を視聴しながら、観察分析データを参照して授業評価・省察を実施し、反省会ではそれをもとに討議する。第1～3回は指導案作成、第4～6回は模擬授業実施。第7回に中間反省会、第8～10回は修正案による模擬授業実施。第11回は最終反省会(最終課題の確認)を実施する。	専修免許の一括申請に必要となる科目。春学期に受講希望者を対象にガイダンスを行うので、必ず出席するようにしてください 対面
OATP202	学校健康教育論	1	1.0	1	秋C	火1,2	片岡 千恵	本授業では、学校における健康および安全の課題について、教育的視点から論じる。具体的には、学校における健康教育の現状と課題について解説するとともに、性に関する指導、心の健康に関する指導、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、がん教育、安全に関する教育等を取り上げ、その内容と方法について講義する。また、学校における健康教育の指導者として身に付けるべき資質・能力について概説する。本授業を通して、学校における健康教育の課題、考え方や進め方、教材づくりの実際等について、理解を深めることを目的とする。	対面
OATP203	アダプテッド・スポーツ教育論	1	1.0	1	秋AB	月4	齊藤 まゆみ, 澤江幸則	特別支援教育におけるアダプテッド・スポーツ教育について、特別支援教育の制度とアダプテッド・スポーツ、障害のある生徒とアダプテッド・スポーツ、インクルーシブ体育とアダプテッド・スポーツ、体育・スポーツにおける支援という視点から講述し、アダプテッド・スポーツの方法について ICF(International Classification of Functioning, Disability and Health)の概念をもとに説明できること、発達障害のある子どもの状態を複合的に説明でき、発達障害のある子どもの支援に対して多面的にアイデアを出すことができることを目標としている。	対面
OATP204	スポーツカウンセリング論	1	1.0	1	秋AB	火3	雨宮 怜	カウンセリングの基本的な理論と技法を理解するとともに、スポーツ競技者や生徒や一般人の心身の健康増進および競技や日常生活におけるパフォーマンスの向上を目的とした指導や援助の基本的技術を学ぶ。スポーツ競技者や生徒や一般人の心身の問題の改善やパフォーマンス向上を目的とした心理的サポートとして、指導者や援助者に必要なカウンセリングの理論と方法を、健康心理学およびスポーツ心理学の最新の知見を踏まえて学ぶ。	対面
OATP206	大学体育教育論	1	1.0	1・2	春C	応談	木内 敦詞, 高木英樹, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 長谷川悦示, 金谷 麻理子, 奈良 隆章, 松尾 博一, 永田 真一	体育を専攻しない大学生への体育授業や運動部活動のあり方を考えることは、将来の大学体育教員をめざす大学院生へ向けたキャリア教育ともいえる。これらを踏まえ、本授業では、大学生のための教養体育授業や運動部活動に焦点をあて、それらを体系的・多面的に学ぶ。	オンライン(オンデマンド型)
OATP210	保健社会学	1	1.0	1	秋AB	金3	門間 貴史	健康の概念に関する医学モデルと社会モデルの各理論、健康づくり、健康増進および健康の社会的要因に関する基本パラダイムを学ぶ。また超少子高齢社会における公衆衛生の基本戦略、母子保健・産業保健の各領域における直近の健康課題とそれに対応する各種の法制度・政策・サービスの現状、保健社会学の研究事例と最新の知見を学ぶ。	オンライン(オンデマンド型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP212	学校体育経営論	1	1.0	1	秋AB	木5	林田 敏裕, 姜 泰安	現在生じている学校体育及びその関連問題についての相互批判的議論を通じて、多角的で俯瞰的な視野をもつと共に、学校体育の総合的な経営理念や経営哲学を鍛える。具体的には、「学校体育における専門性とは何か」「学校体育における教育内容の選択原理は何か」「義務教育における自由化(競争原理の導入)の是非」等の本質的問いについて、ディベート形式の集団討議を通じて議論を深める。そして最終的には、学校体育経営の哲学の根幹となる「学校体育の存在意義」について批判的に考察し、各自の教育改革プランを構想する。	西暦偶数年度開講。 対面
OATP213	武道授業指導論	1	1.0	1	春AB	月1	有田 祐二, 鍋山 隆弘, 岡田 弘隆, 増地 克之	学校における武道の指導法について検討し実習する。	対面
OATP214	スポーツ心理学	1	1.0	1	秋A	集中	雨宮 怜, 國部 雅大	アスリートの心理サポート現場での心理的諸問題の解説ならびに課題への対処方法について概説する。 授業項目: スポーツ心理学(臨床スポーツ心理学)の歴史と概観、心理サポートのアプローチ、スポーツメンタルトレーニングの概要、スポーツカウンセリングの概要、実践と研究、心理臨床学的方法、タレント発掘、青年期におけるスポーツ経験と人格形成、スポーツ傷害と心理(事例中心)、メンタルトレーニング事例、アスリートの相談事例	対面(オンライン併用型)
OATP215	運動学習心理学	1	1.0	1	秋AB	月4	國部 雅大	人間の運動学習(Motor Learning)と運動制御(Motor Control)について、知覚-運動統合の過程を中心に学ぶ。	対面(オンライン併用型)
OATP217	野外教育プログラム論	1	1.0	1	春AB	木2	渡邊 仁	本授業では、野外教育で展開される各種プログラムを多面的に理解し、野外教育プログラムを自ら計画・運営・評価する能力を高めることを目標とする。具体的には、各種プログラムの特徴・目的・指導法・安全管理等について理解を深めるとともに、プログラムの計画や運営する能力を高め、地域の様々な資源(自然環境、地域文化等)を生かしたプログラム開発に取り組む。授業の最終回には、グループワークとして、ある条件を満たした「野外教育プログラム」のプレゼンテーションが課される。	対面
OATP218	野外教育指導論	1	1.0	1	春AB	火5	坂本 昭裕	野外教育プログラムであるキャンプ指導の特徴の一つは、グループをカウンセリングすることにある。本時では、1)アメリカにおけるセラピーキャンプを取り上げ、カウンセリングの理論について理解すること。2)キャンプカウンセリングの実際(VTR)を理解すること、3)キャンプを活用したカウンセリングの方法について理解すること、さらに、4)参加者のアセスメント方法について体験的(描画法)に理解することが目的である。	対面
OATP219	体育授業観察分析法I	2	1.0	1	秋ABC	随時	長谷川 悦示	体育授業の組織的観察法についての、そのねらい、手段、手順を学習し、この方法を用いて実際の体育授業を観察し分析し評価する能力を育成する。 学習目標: 体育の学習指導を方向付けている様々な研究法や理論について理解する。また、実際の授業を観察し、そこに適用されている学習指導論を分析、評価することによって、基礎的な研究力を養う。	「体育科学習指導論」を履修中もしくは修得済みの者に限る。春学期に受講希望者を対象にガイダンスを行うので、必ず出席するようにしてください。 対面(オンライン併用型)
OATP220	体育授業観察分析法II	2	1.0	1	秋AB	随時	齊藤 まゆみ, 澤江 幸則	アダプテッド体育の視点をもった授業づくりのための理論を学び、特別支援学校や特別支援教育対象生徒が参加する体育授業を観察評価するとともに教材開発を行う。	対面
OATP231	健康・スポーツ教育キャリア形成支援実習(インターンシップ含む)春	3	1.0	1・2	春C夏季休業中	随時	インターンシップ担当教員	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、学校における授業や部活動、行政機関など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「健康・スポーツ教育インターンシップ」と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP232	健康・スポーツ教育 キャリア形成支援実習 (インターンシップ含む)秋	3	1.0	1	秋C春季休業中	随時	インターンシップ 担当教員	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、学校における授業や部活動、行政機関など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「健康・スポーツ教育インターンシップ」と同一。
OATP241	野外教育実習(キャンプ)	3	1.0	1	春BC 夏季休業中	随時 集中	渡邊 仁	本授業では、代表的な野外教育プログラムの形態である「組織キャンプ」について、自らその教育的価値を実体験しながら、基本的な計画(事前授業)・運営(本実習)・評価(事後授業)の方法を実践的に学習する。具体的なプログラムや学習内容は、野外生活スキル、冒険教育プログラム、環境教育プログラム、キャンプマネジメント、キャンプカウンセリング、指導法、安全教育と安全管理、環境倫理、環境配慮スキル、サバイバル技術等を含んでいる。	対面
OATP242	舞踊授業指導論	1	1.0	1・2	秋AB	木2	寺山 由美	体育授業としての舞踊(ダンス)の授業(学習指導)における理論と実践方法について関連する文献と実践事例を基に検討するとともに、主な学習内容(創作系、リズム系、フォークダンス系)の特性を踏まえた指導計画を作成し検討していく。ダンスの特性、学習内容、指導計画、指導言語、学習評価などに着目し、舞踊の授業指導への理解を深める。それらの知見を基に、学習者と指導者の関係性から授業をどのように創造していくのかを検討する。	西暦偶数年度開講。 対面
OATP301	体力学特講	1	1.0	1・2	春AB	金1	木塚 朝博, 鍋倉賢治, 小野 誠司	体力・運動能力に関する様々な概念や構成要素を復習し、発達加齢段階や各種レベルに応じた測定法、最新の解析法を解説することを通して、運動遊び、エクササイズ、トレーニングなどが、健康体力や競技体力に及ぼす効果について学ぶ。	対面で実施したいが、状況によってはオンデマンドで実施する。 AT必修科目
OATP107	スポーツ政策学	1	1.0	1	春AB	水3	齋藤 健司, 成瀬和弥	スポーツ政策の現状と課題に対する理解を深めるとともに、スポーツ政策学の理論と視座を考える。	対面
OATP114	スポーツ行政学	1	1.0	1	春AB	月6	成瀬 和弥	行政学の視点から、日本のスポーツを検討し、中央政府や地方政府の組織、制度及び政策などについて、その基礎知識を学ぶ。日本のスポーツ行政過程の構造や機能について理解を深める。また、授業の後半(5回目以降)にはグループディスカッションを行う。グループごとに日本のスポーツ問題を検討し、仮説を設定してその問題を解決するための方策を立案する。グループごとに、その内容を発表し、他のグループとディスカッションを行う。	対面
OATP142	スポーツリスクマネジメント論	1	1.0	1	秋AB	火4	齋藤 健司	スポーツ活動におけるリスクマネジメント理論の応用を検討するとともに、スポーツ事故の法的責任、安全対策および事故防止策についての理解を深める。 リスクマネジメントの枠組み、プロセスなどの理論とそのスポーツへの応用、体育・スポーツ事故の統計データと事故原因、突然死、頭部外傷、脳震盪、熱中症、溺水事故、自然災害などの原因と対策、中止基準、健康調査、スポーツ事故の法的責任、スポーツ施設の法的責任、免責同意書等の法的防御書類などについて、事故事例及び判例を交えて解説する。	対面
OATP307	体育測定評価学特講(発育発達学を含む)	1	1.0	1・2	春AB	木1	角田 憲治	子どもから高齢者に至るまでの体力・形態の測定法、ならびにアスリートにおけるパフォーマンス評価法の概要を学ぶ。ここでは測定法やアンケート尺度の開発における手順や検証方法についても取り上げる。また、体育学分野における研究デザインの種類や計画方法、採取したデータの評価・分析方法について概説する。	対面
OATP501	コーチングのバイオメカニクス	1	1.0	1	秋AB	月3	榎本 靖士	スポーツの技術やトレーニングを考えるための基礎となるバイオメカニクスの諸原則、動作の改善ループの考え方とその応用法、バイオメカニクスデータの解釈などについて解説し、これらの知識を動作の改善に活用するための基礎的能力を身につけることを学習目標とする。具体的には、スポーツ技術のバイオメカニクスのとらえ方、力学的エネルギー・効率・有効性指数の算出法の解説、選手の動きを評価・診断・改善するためのバイオメカニクスの知識の重要性の解説などを通して、客観的知識を基礎とするコーチングについて学習させる。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP502	トレーニング学	1	2.0	1	春AB秋AB	木1	前村 公彦, 谷川 聡	スポーツトレーニングを推進するための適切な目標と課題の設定法、課題解決法や手段の選択・創造法、時間資源と時系列的な関連性を考慮した計画立案法、効果的なトレーニング実践法、トレーニング効果のアセスメント法に関する理論を理解し、高度なトレーニング実践を展開できる知を学習する。また、トレーニング学独自の学領域としてのオリジナリティとその研究方法論について学んでいく。	OAS0203と同一。(2023年度まで開講) 対面 AT必修科目
OATP506	スポーツ運動学	1	1.0	1	春AB	木2	中村 剛	発生運動学としてのスポーツ運動学の学問成立の経緯、基本概念、運動の分析法を講義して、運動の実現場および研究においてもスポーツ運動学の意義、価値の理解を深める。具体的には、体育・スポーツ領域において使われている運動の概念についての整理、運動をゲシュタルト(運動ゲシュタルト)として認識することの重要性、現場において取り上げられる動きの質の問題、実際の動きを取り上げる際に重要になる生命的な時空間の問題、そして、「できる」ということを考える際に不可欠な身体知の問題、その「できる」を支える「動感」の問題、動きの意味と価値の問題、スポーツ運動学と現象学の関係、などについて講義する。	対面 AT必修科目

系列科目(ヘルスフィットネス)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OAS0202	健康増進学特講	1	1.0	1・2	春AB	NT	大藏 倫博	加齢に伴う生活機能の変化と健康との関連に基づき、健康増進(サクセスフルエイジング)に必要なトレーニング法、生活実践法などについて講義する。一般健康者、高齢者、有疾患者に対する運動処方についても講義する。学習目標は、中年期から高齢期までのヘルスプロモーションのあり方および加齢にともなう体力(生活機能)の低下と健康との関連について理解することである。特に、サクセスフルエイジング、元気長寿のための運動プログラム、中年期における体重管理の意義、健康におよぼす運動習慣化の効果、保健指導の問題点と健康支援の重要性、統計データから読み解く高齢者問題、生活機能、身体機能と介護予防の関係、認知機能と介護予防の関係、心理社会機能と介護予防の関係について学ぶ。	オンライン(オンデマンド型)
OATP301	体力学特講	1	1.0	1・2	春AB	金1	木塚 朝博, 鍋倉 賢治, 小野 誠司	体力・運動能力に関する様々な概念や構成要素を復習し、発達加齢段階や各種レベルに応じた測定法、最新の解析法を解説することを通して、運動遊び、エクササイズ、トレーニングなどが、健康体力や競技体力に及ぼす効果について学ぶ。	対面で実施したいが、状況によってはオンデマンドで実施する。 AT必修科目
OATP302	スポーツ生理学特講	1	1.0	1	春AB	水2	武政 徹, 藤井 直人	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環及び体温調節系の役割について理解するため、以下のキーワードに関連して解説する。 骨格筋系のキーワード: 重立式トレーニング法、筋肥大、遺伝子ドーピング、サルコペニア、冬眠、レーシングパフォーマンスを上げる遺伝子、老化を遅らせる運動 呼吸循環系のキーワード: ガス交換、酸素摂取量、血管調節、発汗調節、高地トレーニング、暑熱順化、水分調節	対面 AT必修科目
OATP303	スポーツ生化学特講	1	1.0	1	春AB	火1	岡本 正洋, 松井 崇	スポーツ生化学に関する国内外の専門書、文献、研究論文等を講読し、スポーツ生化学の対象領域、基本概念、研究方法などを学習することによって研究に必要な基礎的能力を身に付ける。運動が身心に及ぼす影響とトレーニング効果に関してスポーツ生化学の立場から理解を深め、健康や運動パフォーマンスの維持・増進のメカニズムを理解する。演習の最後に受講生の発表会を行い、教員と受講生の間で討議を行う。参考図書: 脳を鍛えるには運動しかない(NHK 出版)、からだの中からストレスをみる(学会出版センター)、使えるスポーツサイエンス(講談社サイエンティ)	対面 AT必修科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP304	スポーツ栄養学特講	1	1.0	1・2	春AB	水1	麻見 直美, 下山 寛之	時代に即したスポーツ・運動栄養学への理解を深めるために、運動(身体活動)、トレーニング、スポーツに関連した栄養、食生活、食事摂取基準、酸化ストレス、抗酸化ビタミン、エネルギー代謝、糖代謝、脂質代謝、タンパク代謝、骨(フィーメールアスリートトライアドを含む)、貧血、水分代謝、休養(睡眠・時差)などのトピックスを取りあげて、講義を行う。加えて、スポーツ栄養の今日的現場課題について問題理解と解決策検討について議論する。	オンライン(対面併用型)
OATP306	ヘルスフィットネス橋渡し研究概論	1	1.0	1	秋AB	月1	武政 徹, 木塚 朝博, 小野 誠司, 榎本 靖士, 麻見 直美, 大藏 倫博, 岡本 正洋, 松井 崇, 下山 寛之, 藤井 直人	ヘルスフィットネス分野における基礎的研究と応用・臨床的研究の関係性および研究をスポーツ実践(現場)や生活・健康に生かすための課題や工夫について解説する。	対面
OATP307	体育測定評価学特講(発育発達学を含む)	1	1.0	1・2	春AB	木1	角田 憲治	子どもから高齢者に至るまでの体力・形態の測定法、ならびにアスリートにおけるパフォーマンス評価法の概要を学ぶ。ここでは測定法やアンケート尺度の開発における手順や検証方法についても取り上げる。また、体育学分野における研究デザインの種類や計画方法、採取したデータの評価・分析方法について概説する。	対面
OATP311	スポーツ栄養学実験実習	3	2.0	1・2	通年	随時	麻見 直美, 下山 寛之	スポーツ栄養学領域の調査、実験を行うに必要な知識と技術を、実験・実習を通して学習する。それぞれの履修者のこれまでの学習背景、現在からこれからの研究領域を考慮して、履修者それぞれの知識ニーズに個別に対応した課題設定を行って実施する。	スポーツ栄養学特講受講者に限る。 オンライン(対面併用型)
OATP312	スポーツ生理学実験	3	2.0	1・2	春AB秋AB	金4,5	武政 徹, 藤井 直人	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環系の下記のキーワードに関する研究方法を理解することを目的として、実験実習を行う。履修はスポーツ生理学の基礎を学んだものに限る。 骨格筋系のキーワード:筋肥大、筋持久力増強、筋萎縮を誘導する動物(マウス)実験系、打撲刺激、鍼刺激、切片の免疫組織化学、蛋白質解析(ウエスタンブロット)、mRNA解析(Real-time PCR)、培養骨格筋細胞、細胞外フラックスアナライザー 呼吸循環系のキーワード:最大酸素摂取量、血管機能測定、呼吸機能測定、体温調節機能	スポーツ生理学特講の受講者に限る原則、運動生理学領域に所属する学生のみ受講可能とする 要相談
OATP313	スポーツ生化学実験	3	2.0	1・2	秋AB	火1,2	岡本 正洋, 松井 崇	実験を行うことを通して、実験機材の取り扱い、研究資料の収集法、実験材料の分析法を身に付ける。これによって、運動と代謝・内分泌応答に関する基礎的測定と評価法を理解し、研究を遂行できる実践能力を養成する。	スポーツ生化学特講の受講者に限る 対面
OATP314	体力学実習	3	2.0	1・2	春ABC秋AB	随時	小野 誠司, 鍋倉 賢治, 木塚 朝博, 榎本 靖士	体力科学、体力・運動能力、体力トレーニング、運動遊びなどに関する国内外の学術論文、解説、著書、マニュアルなどを参考に、体力学領域における研究計画、研究方法、プレゼンテーションについて実習する。	体力学領域の所属学生に限る。 対面
OATP315	健康増進学実習	3	2.0	1・2	春ABC秋AB	随時	大藏 倫博, 渡部 厚一	一般健常者、高齢者、有疾患者を対象とした健康指標の検査・測定方法およびトレーニング方法の実際を学習する。学習目標は、中年から高齢者、有疾患者を対象とした健康運動指導法および健康支援法に関する実際を学び、基本的な指導ができるようになることである。	原則として、健康増進学領域の所属学生に限る。 対面
OATP316	体育測定評価学実習(発育発達学を含む)	3	2.0	1・2	通年	随時	角田 憲治	子どもから高齢者に至るまでの体力・形態の測定法の実際について学習する。また、得られたデータについてのデータ分析と図表作成を実践的に行う。	対面
OATP321	基礎ヘルスフィットネス演習	3	1.0	1・2	秋AB	水1	武政 徹, 小野 誠司, 榎本 靖士, 麻見 直美, 大藏 倫博, 下山 寛之, 松井 崇, 藤井 直人, 岡本 正洋, 角田 憲治	最新のヘルスフィットネス分野の研究に関する動向を学び、研究デザインの組み立て方や分析方法について修得する。健康体力学分野に所属する教員がオムニバス方式で担当する。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP331	ヘルスフィットネス キャリア形成支援実習 (インターンシップ含む)春	3	1.0	1・2	春C夏季休業中	随時	インターンシップ 担当教員	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、地域スポーツクラブ、スポーツや健康に関連する企業や研究所など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「ヘルスフィットネスインターンシップ」と同一。
OATP332	ヘルスフィットネス キャリア形成支援実習 (インターンシップ含む)秋	3	1.0	1	秋C春季休業中	随時	インターンシップ 担当教員	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、地域スポーツクラブ、スポーツや健康に関連する企業や研究所など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「ヘルスフィットネスインターンシップ」と同一。
OATP142	スポーツリスクマネジメント論	1	1.0	1	秋AB	火4	齋藤 健司	スポーツ活動におけるリスクマネジメント理論の応用を検討するとともに、スポーツ事故の法的責任、安全対策および事故防止策についての理解を深める。 リスクマネジメントの枠組み、プロセスなどの理論とそのスポーツへの応用、体育・スポーツ事故の統計データと事故原因、突然死、頭部外傷、脳震盪、熱中症、溺水事故、自然災害などの原因と対策、中止基準、健康調査、スポーツ事故の法的責任、スポーツ施設の法的責任、免責同意書等の法的防御書類などについて、事故事例及び判例を交えて解説する。	対面
OATP143	スポーツマーケティング論	1	1.0	1・2	春C	集中	醍醐 笑部	スポーツマーケティングの目的、方法に関する基礎理論を理解するとともに、商業スポーツ施設経営やスポーツイベント経営など具体的なスポーツ経営を事例にした検討を通して、実践的な考え方を養う。	オンライン(オンデマンド型)
OATP204	スポーツカウンセリング論	1	1.0	1	秋AB	火3	雨宮 怜	カウンセリングの基本的な理論と技法を理解するとともに、スポーツ競技者や生徒や一般人の心身の健康増進および競技や日常生活におけるパフォーマンスの向上を目的とした指導や援助の基本的技術を学ぶ。スポーツ競技者や生徒や一般人の心身の問題の改善やパフォーマンス向上を目的とした心理的サポートとして、指導者や援助者に必要なカウンセリングの理論と方法を、健康心理学およびスポーツ心理学の最新の知見を踏まえて学ぶ。	対面
OATP401	運動器のしくみと働き (基礎編)	1	1.0	1・2	春AB	木4	平田 浩祐	運動器を構成する骨格、筋、神経系の概要を学ぶ。生物の形態は、その機能と深い関係を持っている。運動において関節の構造は大切であり、関節が運動を「制限」することによって目的とした運動が実現される。運動器にはさらに、腱、靭帯も重要な要素として関わっている。神経系は、これらの特性も考慮して筋に指令を出している。このようなことがらについて、詳細を解説していく。	対面 AT必修科目
OATP402	スポーツバイオメカニクス特講	1	1.0	1	秋AB	火4	小池 関也, 佐渡 夏紀	スポーツ動作や様々な基礎的運動をバイオメカニクスの側面から考察するために必要な基礎事項や分析手法、特に逆動力学的計算について解説する。具体的には、並進運動および回転運動における力学的法則を確認した後、剛体リンクモデルによる関節トルク算出手法について解説する。その際に、身体部分慣性特性係数についても解説するとともに、体育総合実験棟において身体運動の計測方法、地面反力の計測方法についても実演を行う。	対面 AT必修科目
OATP403	スポーツ用具と動きのしくみ	1	1.0	1・2	春AB	金2	小池 関也	スポーツ用具の性能向上のためのしくみについて紹介するとともに、パフォーマンス実現のための動きのしくみ(メカニズム)について解説する。用具として、各種打具、シューズ、各種ボール、水着などを例に挙げ、パフォーマンスに関係する各種特性について、物理的な現象面あるいは生体力学的な視点から解説する。つぎに、スポーツ動作の各種分析手法を紹介したのちに、これらの分析手法を活用して得た各種動作の分析結果から、スポーツ動作における動きのしくみについて解説し、パフォーマンスの発揮メカニズムについて紹介する。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP409	ヒトの身体と運動のダイナミクス	1	1.0	1・2	春AB	月4	佐渡 夏紀	ヒト身体は主に直立二足の移動様式に適應して形作られた。さらにヒト身体には可塑性が有り、日常の多寡に応じて適應する。競技者はトレーニングによって望ましい身体を形成しつつ身体的特徴を活かした動作様式により身体能力を最大化する。本講義では、身体の力学的特性に関するヒト一般の特徴やヒト内の個人差・可塑性と基礎的な身体運動の遂行機序の関連に関する知見を紹介・解説する。	オンライン(対面併用型) (オンライン(オンデマンド型)、対面併用。状況に応じて実施形態は臨機応変に対応する。)
OATP410	アスレティックコンディショニング論特講	1	2.0	1	秋AB	月5,6	福田 崇, 渡部 厚一, 井汲 彰, 竹村 雅裕, 眞下 苑子	競技力向上を目的としたスポーツ傷害予防やコンディショニングの課題と方法論を多面的に解説する。	対面 AT必修科目
OATP411	アスレティックリハビリテーション論特講	1	2.0	1	春AB	月5,6	井汲 彰, 竹村 雅裕, 福田 崇, 眞下 苑子	スポーツ選手が傷害から復帰するために必要なリハビリテーションの基本を学習する。	対面 AT必修科目
OATP412	アスレティックトレーナー特講	1	1.0	1・2	春AB	随時	竹村 雅裕	アスレティックトレーナーの現状を把握し、現在まで発展してきた経緯と遺産を理解する。歴史的背景からみたアスレティックトレーナー成り立ちや現代社会における特徴をまとめ、その将来を展望する能力を養う。	対面 AT必修科目
OATP413	テーピング・マッサージ実習	3	2.0	1・2	春B 春C	集中	竹村 雅裕, 福田 崇, 眞下 苑子	テーピング及びマッサージを実施する上での運動学的、解剖学的、生理学的な基礎知識や方法について解説しながら、実習を行う。実習はベーシックとアドバンスの2つに分かれて実施する。	対面 AT必修科目
OATP502	トレーニング学	1	2.0	1	春AB秋AB	木1	前村 公彦, 谷川 聡	スポーツトレーニングを推進するための適切な目標と課題の設定法、課題解決法や手段の選択・創造法、時間資源と時系列的な関連性を考慮した計画立案法、効果的なトレーニング実践法、トレーニング効果のアセスメント法に関する理論を理解し、高度なトレーニング実践を展開できる知を学習する。また、トレーニング学独自の学領域としてのオリジナリティーとその研究方法論について学んでいく。	OAS0203と同一。(2023年度まで開講) 対面 AT必修科目

系列科目(アスレティックコンディショニング)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP304	スポーツ栄養学特講	1	1.0	1・2	春AB	水1	麻見 直美, 下山 寛之	時代に即したスポーツ・運動栄養学への理解を深めるために、運動(身体活動)、トレーニング、スポーツに関連した栄養、食生活、食事摂取基準、酸化ストレス、抗酸化ビタミン、エネルギー代謝、糖代謝、脂質代謝、タンパク代謝、骨(フィーマルアスリートライアードを含む)、貧血、水分代謝、休養(睡眠・時差)などのトピックスを取りあげて、講義を行う。加えて、スポーツ栄養の今日的現場課題について問題理解と解決策検討について議論する。	オンライン(対面併用型)
OATP401	運動器のしくみと働き(基礎編)	1	1.0	1・2	春AB	木4	平田 浩祐	運動器を構成する骨格、筋、神経系の概要を学ぶ。生物の形態は、その機能と深いかわりを持っている。運動において関節の構造は大切であり、関節が運動を「制限」することによって目的とした運動が実現される。運動器にはさらに、腱、靭帯も重要な要素としてかかわっている。神経系は、これらの特性も考慮して筋に指令を出している。このようなことがらについて、詳細を解説していく。	対面 AT必修科目
OATP402	スポーツバイオメカニクス特講	1	1.0	1	秋AB	火4	小池 関也, 佐渡 夏紀	スポーツ動作や様々な基礎的運動をバイオメカニクスの側面から考察するために必要な基礎事項や分析手法、特に逆動力学的計算について解説する。具体的には、並進運動および回転運動における力学的法則を確認した後、剛体リンクモデルによる関節トルク算出手法について解説する。その際に、身体部分慣性特性係数についても解説するとともに、体育総合実験棟において身体運動の計測方法、地面反力の計測方法についても実演を行う。	対面 AT必修科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP403	スポーツ用具と動きのしくみ	1	1.0	1・2	春AB	金2	小池 関也	スポーツ用具の性能向上のためのしくみについて紹介するとともに、パフォーマンス実現のための動きのしくみ(メカニズム)について解説する。用具として、各種打具、シューズ、各種ボール、水着などを例に挙げ、パフォーマンスに関係する各種特性について、物理的な現象面あるいは生体力学的な視点から解説する。つぎに、スポーツ動作の各種分析手法を紹介したのちに、これらの分析手法を活用して得た各種動作の分析結果から、スポーツ動作における動きのしくみについて解説し、パフォーマンスの発揮メカニズムについて紹介する。	対面
OATP404	女性スポーツ医学論特講	1	1.0	1	秋AB	水2	渡部 厚一, 中尾 砂理	月経の調節機構と加齢による変化、妊娠による身体機能の変化と胎児の発育を学ぶ。激しいスポーツ活動に起因する月経異常の発現機転を理解する。また、妊婦のスポーツ活動が母体および胎児に及ぼす影響を理解する。	対面 AT必修科目
OATP405	機能解剖学実験	3	1.0	1・2	春C	集中	平田 浩祐	実験を通じて形態計測、神経筋機能の評価方法を学ぶ。	対面 AT必修科目 学研災付帯賠償責任保険(またはこれに準ずる保険)に加入すること。実験計測に適した服装で受講すること。
OATP406	運動器のしくみと働き(応用編)	1	1.0	1・2	秋AB	火1	平田 浩祐	上肢の運動を上肢帯の運動、肩関節、肘関節、手関節における運動、さらに手部における運動に分け、それぞれの運動に関与する筋について、詳細を学習するとともに、これらの関節の詳細も学習する。下肢に関しても同様に、股関節、膝関節、足関節及び足部における運動に関与する筋の詳細を学習し、これらの関節の詳細も学習する。さらに、呼吸運動も含む体幹の運動についても、それに作用する筋について学習する。	対面 AT必修科目
OATP407	スポーツ医学基礎論実習I	3	2.0	1・2	通年	応談	渡部 厚一, 中田 由夫	スポーツ医学(内科系)に関連する実習として、一般健康者、中高齢者、肥満者などにおける運動プログラムや食生活改善プログラムなどの生活習慣改善プログラムの実践により、その実際を学ぶ。さらに、これら生活習慣改善プログラムを通じて、種々の健康関連指標の評価方法や解析方法を学習し、運動や食生活改善などの生活習慣改善が健康関連指標に与える影響を学ぶ。この実習により、スポーツ医学(内科系)の基礎的な実験手法などを身につけることを目標とする。	対面
OATP408	スポーツ医学基礎論実習II	3	2.0	1・2	通年	随時	眞下 苑子, 竹村 雅裕	スポーツ傷害に関する基本的な身体特性の評価、受傷機転の解析、予防法について、実習を通して理解を深め、スポーツ医学に関する基本的能力を養う。この実習により、スポーツ医学(外科系)の基礎的な実験手法などを身につけることを目標とする。スポーツ傷害に関する基本的な身体の評価方法について学ぶことで、受講生がテーマを決定し、研究計画を立てることが出来るようにする。	対面 AT必修科目
OATP409	ヒトの身体と運動のダイナミクス	1	1.0	1・2	春AB	月4	佐渡 夏紀	ヒト身体は主に直立二足の移動様式に適応して形作られた。さらにヒト身体には可塑性が有り、日常の多寡に応じて適応する。競技者はトレーニングによって望ましい身体を形成しつつ身体的特徴を活かした動作様式により身体能力を最大化する。本講義では、身体の力学的特性に関するヒト一般の特徴やヒト内の個人差・可塑性と基礎的な身体運動の遂行機序の関連に関する知見を紹介・解説する。	オンライン(対面併用型) (オンライン(オンデマンド型)、対面併用。状況に応じて実施形態は臨機応変に対応する。)
OATP414	スポーツ内科学特講	1	2.0	1・2	通年	応談	渡部 厚一	スポーツ現場で頻繁に認められる内科的疾患について、診断・治療・予防法の概要を解説するとともに、スポーツ種目別の特徴、ヘルスポモーションの視点としてのチームマネジメントとの関連性について事例を挙げ、ディスカッションを行う。具体的テーマとして、心臓突然死とメディカルチェック、スポーツ貧血、運動誘発喘息とアナフィラキシー、インフルエンザやノロウイルス等の感染症対策、過換気症候群、熱中症と低体温症、内科的コンディション評価とオーバートレーニングなどを取り上げる。	西暦偶数年度開講。 対面 AT必修科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP422	スポーツ医学基礎論特講II	1	1.0	1・2	春C	集中	井汲 彰, 鎌田 浩史	運動による運動器の変化について、骨組織の形態、骨代謝と軟骨代謝の生化学マーカー、軟部組織の3回に分けて解説する。いずれも自身や研究室で実験した結果を基にしており、運動負荷による変化をどのように把握できるかに重点を置いた構成としている。	OATP8K3と同一。(2023年度まで開講) 対面 AT必修科目
OATP410	アスレティックコンディショニング論特講	1	2.0	1	秋AB	月5,6	福田 崇, 渡部 厚一, 井汲 彰, 竹村 雅裕, 眞下 苑子	競技力向上を目的としたスポーツ傷害予防やコンディショニングの課題と方法論を多面的に解説する。	対面 AT必修科目
OATP411	アスレティックリハビリテーション論特講	1	2.0	1	春AB	月5,6	井汲 彰, 竹村 雅裕, 福田 崇, 眞下 苑子	スポーツ選手が傷害から復帰するために必要なリハビリテーションの基本を学習する。	対面 AT必修科目
OATP412	アスレティックトレーナー特講	1	1.0	1・2	春AB	随時	竹村 雅裕	アスレティックトレーナーの現状を把握し、現在まで発展してきた経緯と遺産を理解する。歴史的背景からみたアスレティックトレーナー成り立ちや現代社会における特徴をまとめ、その将来を展望する能力を養う。	対面 AT必修科目
OATP413	テーピング・マッサージ実習	3	2.0	1・2	春B 春C	集中	竹村 雅裕, 福田 崇, 眞下 苑子	テーピング及びマッサージを実施する上での運動学的、解剖学的、生理学的な基礎知識や方法について解説しながら、実習を行う。実習はベーシックとアドバンスの2つに分かれて実施する。	対面 AT必修科目
OATP415	アスレティックコンディショニング論演習	2	3.0	1・2	通年	随時	福田 崇, 井汲 彰, 眞下 苑子	競技力向上を目的としたコンディショニングやトレーニングを実践し、パフォーマンスに関わるスポーツ傷害予防やコンディショニングの方法についてグループで実習を行う。	対面 AT必修科目
OATP416	アスレティックリハビリテーション論演習	2	3.0	1・2	通年	随時	井汲 彰, 福田 崇, 眞下 苑子	スポーツ傷害からの早期復帰に必要な知識を駆使して、アスレティックリハビリテーションプログラムを作成できるようにする。	対面 AT必修科目
OATP417	アスレティックコンディショニング論実習	3	2.0	1・2	通年	応談	眞下 苑子, 井汲 彰, 福田 崇	アスレティックコンディショニング論特講・演習で身に着けた知識・手段・方法・技術を実践を通じて確認をする。	対面 AT必修科目
OATP418	アスレティックリハビリテーション論実習	3	2.0	1・2	通年	応談	眞下 苑子, 井汲 彰, 福田 崇	アスレティックリハビリテーション論特講・演習で身に着けた知識・技術・プロセスを実際に体験して学習する。	対面 AT必修科目
OATP419	アスレティックトレーナー演習	2	1.0	1・2	春B	集中	福田 崇	アスレティックトレーナーの組織的将来展望についての知見を習得することを目的として、アスレティックトレーナーとしての役割、資質、養成、教育、競技力への貢献、社会的貢献に関する文献的検討を演習形式で行う。更に、アスレティックトレーナーのアマスポーツ(学校における授業や部活動、地域スポーツクラブなど)での役割、プロスポーツ(ナショナルレベル、インターナショナルレベル)での役割に関する文献的検討も行う。	対面 AT必修科目
OATP431	アスレティックコンディショニングキャリア形成支援実習(インターンシップ含む)春	3	1.0	1・2	春C夏季休業中	随時	インターンシップ担当教員	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、医療機関、スポーツや健康に関連する企業や研究所など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「アスレティックコンディショニングインターンシップ」と同一。
OATP432	アスレティックコンディショニングキャリア形成支援実習(インターンシップ含む)秋	3	1.0	1	秋C春季休業中	随時	インターンシップ担当教員	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、医療機関、スポーツや健康に関連する企業や研究所など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「アスレティックコンディショニングインターンシップ」と同一。
OATP204	スポーツカウンセリング論	1	1.0	1	秋AB	火3	雨宮 怜	カウンセリングの基本的な理論と技法を理解するとともに、スポーツ競技者や生徒や一般人の心身の健康増進および競技や日常生活におけるパフォーマンスの向上を目的とした指導や援助の基本的技術を学ぶ。スポーツ競技者や生徒や一般人の心身の問題の改善やパフォーマンス向上を目的とした心理的サポートとして、指導者や援助者に必要なカウンセリングの理論と方法を、健康心理学およびスポーツ心理学の最新の知見を踏まえて学ぶ。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP214	スポーツ心理学	1	1.0	1	秋A	集中	両宮 怜, 國部 雅大	アスリートの心理サポート現場での心理的諸問題の解説ならびに課題への対処方法について概説する。 授業項目: スポーツ心理学(臨床スポーツ心理学)の歴史と概観、心理サポートのアプローチ、スポーツメンタルトレーニングの概要、スポーツカウンセリングの概要、実践と研究、心理臨床学的方法、タレント発掘、青年期におけるスポーツ経験と人格形成、スポーツ傷害と心理(事例中心)、メンタルトレーニング事例、アスリートの相談事例	対面(オンライン併用型)
OATP215	運動学習心理学	1	1.0	1	秋AB	月4	國部 雅大	人間の運動学習(Motor Learning)と運動制御(Motor Control)について、知覚-運動統合の過程を中心に学ぶ。	対面(オンライン併用型)
OATP301	体力学特講	1	1.0	1・2	春AB	金1	木塚 朝博, 鍋倉 賢治, 小野 誠司	体力・運動能力に関する様々な概念や構成要素を復習し、発達加齢段階や各種レベルに応じた測定法、最新の解析法を解説することを通して、運動遊び、エクササイズ、トレーニングなどが、健康体力や競技体力に及ぼす効果について学ぶ。	対面で実施したいが、状況によってはオンデマンドで実施する。 AT必修科目
OATP302	スポーツ生理学特講	1	1.0	1	春AB	水2	武政 徹, 藤井 直人	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環及び体温調節系の役割について理解するため、以下のキーワードに関連して解説する。 骨格筋系のキーワード: 重村式トレーニング法、筋肥大、遺伝子ドーピング、サルコペニア、冬眠、レーシングパフォーマンスを上げる遺伝子、老化を遅らせる運動 呼吸循環系のキーワード: ガス交換、酸素摂取量、血管調節、発汗調節、高地トレーニング、暑熱順化、水分調節	対面 AT必修科目
OATP303	スポーツ生化学特講	1	1.0	1	春AB	火1	岡本 正洋, 松井 崇	スポーツ生化学に関する国内外の専門書、文献、研究論文等を講読し、スポーツ生化学の対象領域、基本概念、研究方法などを学習することによって研究に必要な基礎的能力を身に付ける。運動が身心に及ぼす影響とトレーニング効果に関してスポーツ生化学の立場から理解を深め、健康や運動パフォーマンスの維持・増進のメカニズムを理解する。演習の最後に受講生の発表会を行い、教員と受講生の間で討議を行う。参考図書: 脳を鍛えるには運動しかない(NHK 出版)、からだの中からストレスをみる(学会出版センター)、使えるスポーツサイエンス(講談社サイエンティ)	対面 AT必修科目
OATP501	コーチングのバイオメカニクス	1	1.0	1	秋AB	月3	榎本 靖士	スポーツの技術やトレーニングを考えるための基礎となるバイオメカニクスの諸原則、動作の改善ループの考え方とその応用法、バイオメカニクスデータの解釈などについて解説し、これらの知識を動作の改善に活用するための基礎的能力を身につけることを学習目標とする。具体的には、スポーツ技術のバイオメカニクスのとらえ方、力学的エネルギー・効率・有効性指数の算出法の解説、選手の動きを評価・診断・改善するためのバイオメカニクスの知識の重要性の解説などを通して、客観的知識を基礎とするコーチングについて学習させる。	対面
OATP502	トレーニング学	1	2.0	1	春AB秋AB	木1	前村 公彦, 谷川 聡	スポーツトレーニングを推進するための適切な目標と課題の設定法、課題解決法や手段の選択・創造法、時間資源と時系列的な関連性を考慮した計画立案法、効果的なトレーニング実践法、トレーニング効果のアセスメント法に関する理論を理解し、高度なトレーニング実践を展開できる知を学習する。また、トレーニング学独自の学領域としてのオリジナリティーとその研究方法論について学んでいく。	OAS0203と同一。(2023年度まで開講) 対面 AT必修科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP506	スポーツ運動学	1	1.0	1	春AB	木2	中村 剛	発生運動学としてのスポーツ運動学の学問成立の経緯、基本概念、運動の分析法を講義して、運動の実践現場および研究においてもつスポーツ運動学の意義、価値の理解を深める。具体的には、体育・スポーツ領域において使われている運動の概念についての整理、運動をゲシュタルト(運動ゲシュタルト)として認識することの重要性、現場において取り上げられる動きの質の問題、実際の動きを取り上げる際に重要になる生命的な時空間の問題、そして、「できる」ということを考える際に不可欠な身体知の問題、その「できる」を支える「動感」の問題、動きの意味と価値の問題、スポーツ運動学と現象学の関係、などについて講義する。	対面 AT必修科目

系列科目(コーチング)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP501	コーチングのバイオメカニクス	1	1.0	1	秋AB	月3	榎本 靖士	スポーツの技術やトレーニングを考えるための基礎となるバイオメカニクスの諸原則、動作の改善ループの考え方とその応用法、バイオメカニクスデータの解釈などについて解説し、これらの知識を動作の改善に活用するための基礎的能力を身につけることを学習目標とする。具体的には、スポーツ技術のバイオメカニクスのとらえ方、力学的エネルギー・効率・有効性指数の算出法の解説、選手の動きを評価・診断・改善するためのバイオメカニクスの知識の重要性の解説などを通して、客観的知識を基礎とするコーチングについて学習させる。	対面
OATP502	トレーニング学	1	2.0	1	春AB秋AB	木1	前村 公彦, 谷川 聡	スポーツトレーニングを推進するための適切な目標と課題の設定法、課題解決法や手段の選択・創造法、時間資源と時系列的な関連性を考慮した計画立案法、効果的なトレーニング実践法、トレーニング効果のアセスメント法に関する理論を理解し、高度なトレーニング実践を展開できる知を学習する。また、トレーニング学独自の学領域としてのオリジナリティーとその研究方法論について学んでいく。	OAS0203と同一。(2023年度まで開講) 対面 AT必修科目
OATP503	コーチング論(事例討議)	1	1.0	1	秋AB	月5	前村 公彦	コーチには、当該スポーツ競技/種目の技術・戦術、トレーニングの指導だけでなく、トレーニング環境を整備したり、多様なステークホルダーと連携し目標を達成していくための能力も求められる。また、その前提となる「コーチング哲学」をどのように構築するかも重要である。本講義では、コーチング現場で活躍中のコーチを招いて、コーチング実践の場における現状と課題を知り、それらをもとに学生相互で討議することによって将来のコーチングに資する実践知の獲得をめざす。	対面
OATP504	身体技法論	1	1.0	1	秋AB	金4	吉田 美和子, 本谷 聡	目標:気功、呼吸法、武術、整体法、体操、ポディワーク等の身体技法について理解し、それらと体育やスポーツとの関係や意味について、個々の身体技法として活用する方法を知る。 授業計画:東洋の身体知(embodied wisdom)に対し、西洋の身体知ともいうべきソマトイクス(Somatics-身体を内側から捉える理論)の臨床的実践技法であるポディワークをテーマに、その理論的背景を学びながら、技術(art)の習得を図る。体験解剖学に基づき、基本的な身体の構造や機能を学びながら、実際に動き(movement)、触れ(touch)、声を出し(vocalization)、身体の経験や気づきを言語化し(verbalization)討議を加える。前半は骨格系、後半は内臓を中心に取り上げる。	対面
OATP505	身体表現論	1	1.0	1・2	春AB	火2	寺山 由美	<私>にとって身体とは何かを問うことを通して、「身体表現」について考察する。自らの「身体表現」と他者の「身体表現」の違いを捉え、私たちがどのようにコミュニケーションを成立させているのかを検討する。特に、ダンスの場面における事例を取り上げ、「身体表現」の特性について考える。また、身体の持つ力に着目し、「身体表現」という括りでダンスとスポーツを捉えることで、体育・スポーツ学を多角的に検討することを試みる。	対面 対面かオンライン(同時双方向型)かを受講者に連絡する。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP506	スポーツ運動学	1	1.0	1	春AB	木2	中村 剛	発生運動学としてのスポーツ運動学の学問成立の経緯、基本概念、運動の分析法を講義して、運動の実現場および研究においてもスポーツ運動学の意義、価値の理解を深める。具体的には、体育・スポーツ領域において使われている運動の概念についての整理、運動をゲシュタルト(運動ゲシュタルト)として認識することの重要性、現場において取り上げられる動きの質の問題、実際の動きを取り上げる際に重要になる生命的な時空間の問題、そして、「できる」ということを考える際に不可欠な身体知の問題、その「できる」を支える「動感」の問題、動きの意味と価値の問題、スポーツ運動学と現象学の関係、などについて講義する。	対面 AT必修科目
OATP510	体操コーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	金3	長谷川 聖修, 本谷 聡	体操領域の特性を理解するとともに、各種のねらいや対象に応じた徒手体操や手具体操の実践力と指導力を身に付ける。	対面
OATP511	体操競技コーチング総合演習	2	1.0	1	秋AB	金3	金谷 麻理子	体操競技および器械運動に関する国内外の文献講読と実習を行い、それぞれの種目の基本技の技術と指導方法、安全に関する配慮などについて理解する。器械運動の内容に関しては、マット運動、とび箱運動、平均台運動、鉄棒運動の基本的な技を身に付けるとともに、効果的に指導する方法を学習する。また、体操競技の内容については、男子6種目(ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒)、女子4種目(ゆか、平均台、段違い平行棒、跳馬)のそれぞれについて種目特性を理解するとともに実習を通して基本技術と指導法を学習し、専門家として必要な資質を身に付ける。	対面
OATP512	陸上競技コーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	金5	大山 卞 圭悟, 木越 清信	陸上競技の技術、トレーニング、指導法について、国内外の文献をもとにして、体育的側面及び競技的側面から有効なコーチングへの手がかりを検討する。	対面
OATP513	水泳競技コーチング総合演習	2	1.0	1	秋AB	木3	仙石 泰雄	水泳競技(競泳・水球・シンクロ・飛び込み)に関するバイオメカニクスのおよび運動生理学的な測定手法を学習し、実験プロトコルを作成した上で各種測定を実施し、正確にデータを収集する能力の獲得を目指す。また、実験で得られたデータの分析方法も学習し、測定データを正しく解釈する能力の獲得を目指す。	対面
OATP514	バレーボールコーチング総合演習	2	1.0	1	秋AB	木3	中西 康己, 秋山 央	国内外の専門文献や研究書を講読し、バレーボールのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バレーボール競技者に必要な体力要素、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、バレーボールのコーチとしての基礎的資質を高める。	対面
OATP515	バスケットボールコーチング総合演習	2	1.0	1・2	春AB	木3	池田 英治	バスケットボールの複雑な競技特性に言及する国内外の専門文献や研究書の精読を通じて、コーチングの前提要件たる理論知の獲得を図る。併せて、実際のコーチング場面で直面する諸問題を解決するための方策について発表・討議することで、バスケットボール競技のコーチングに関わる基礎的な課題についての理解を深める。	対面
OATP516	ハンドボールコーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	金4	會田 宏, 藤本 元, 山田 永子	ハンドボールのコーチング実践に必要な理論の学習とコーチング実践活動を通して、さまざまな問題に対処できる専門的な指導力を身に付ける。	対面
OATP517	サッカーコーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	金4	中山 雅雄	演習形式でサッカーのコーチングに関わる理論の理解を深めると同時に、コーチングの実践を通してサッカーコーチとしての能力を高める。授業の前半は主に講義形式で「サッカーの構造」「プレーの原則」「タレント発掘」「サッカーのコーチング」等について整理する。その後、各自でコーチングプランを作成し、受講者間でそのプランを洗練する作業をおこなう。後半ではそのプランに基づきコーチング実践と省察によって自身のコーチング能力を改善する。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP518	ラグビーコーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	木3	嶋崎 達也	授業は演習形式とし、ラグビーコーチングの現場で直面する様々な問題に対して、その対処法や考え方について学び、各自の指導論・指導法を構築していくことを目的とする。授業の前半ではラグビーのコーチングに必要な理論(指導法、ゲーム分析の視点、パフォーマンス評価、スカウティングなど)を学習した後、後半から各自で設定したテーマに対するコーチングの実践活動を行い、コーチとしての指導力の向上を図るものとする。	対面
OATP519	テニスコーチング総合演習	2	1.0	1	秋C	水1,2	三橋 大輔	国内外の専門文献や研究書を講読し、テニスのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バレーボール競技者に必要な体力要素、ストローク、ボレー、サービス動作の技術指導のやりかた、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、テニスのコーチとしての基礎的資質を高める。	履修前に教員へ要相談
OATP520	バドミントンコーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	火4	吹田 真士	国内外の専門文献や研究書を講読し、バドミントンのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バドミントン競技者に必要な体力要素、ストローク、ボレー、サービス動作の技術指導のやりかた、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、バドミントンのコーチとしての基礎的資質を高める。	対面
OATP521	野球コーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	火4	川村 卓, 奈良 隆章	野球のコーチングに関して、チームのリクルート、マネジメントの仕方及び戦略、戦術、戦法、試合の進め方、投球および打撃動作の観察方法、さらには走塁および守備の考え方、改善方法、チーム練習方法、年代別の課題などについて学習すること、新たな考え方に関して討議し、提案していくことで、野球の指導者としての資質を高める。	専門的な内容になるので、野球経験者に限る。 実施形態: 要相談
OATP522	柔道コーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	火4	岡田 弘隆	柔道における技の分類について説明し、理解させる。投技(手技16本、腰技10本、足技21本、真捨身技5本、横捨身技16本)、固技(抑込技10本、絞技12本、関節技10本)全般について実習するとともに、併せてその指導法についても学び、実践する。柔道のすべての技についてその理合を説明し、それを理解させた上で実践させるとともに、効果的な指導法について、各自で考えさせた上で必要に応じて補足説明を行い、実践させる。それにより、柔道の指導者としての基礎的資質を高めることを目的とする。	対面
OATP523	剣道コーチング総合演習	2	1.0	1	秋AB	金4	鍋山 隆弘, 有田 祐二	剣道の試合・審判規則について学習し、審判の理論と実践能力を高める。	対面
OATP524	弓道コーチング総合演習	2	1.0	1	秋AB	火3	松尾 牧則	日本の伝統的運動文化としての「弓道」の特性を理解するとともに、弓道指導における基礎・基本となる「基本体(基本の姿勢・基本の動作)」「射法八節」についてその理論学習と実践を通じて弓道コーチングの実際を学習する。「基本の姿勢」「基本の動作」を合わせた「基本体」を正しく身につける。また、弓射の基本法則である「射法八節」の理論を理解し、正しく身につけて実践する。また初級者への示範・指導ができるようにする。対象に応じた指導法を理解し、安全かつ効果的に学習できる指導法を理解・習得する。	対面
OATP525	舞踊指導総合演習	2	1.0	1	秋AB	金4	寺山 由美	舞踊(ダンス)教育における内容の中でも表現・創作ダンス(モダンダンス)とリズム系ダンスを中心に、各々の特性と技法、指導法、上演に関する理解を深めるとともに、実習を通して基礎的、応用的な能力を養う。舞踊における身体、イメージ、リズム、動きの関係について、多様なテーマ(課題)から即興的に表現・創作するとともに、舞台に向けたダンス作品を創作、上演する。自らの踊る力を養成すると共に、どのように学習者の実態を捉えた指導法についても学んでいく。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP526	スポーツコーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	火4	前村 公彦, 松元 剛, 河合 季信, 谷川 聡, 木内 敦詞	個別研究領域に含まれていないスポーツ競技/種目を専門とする学生を対象に、種目横断的にその指導法についての理論や指導実践を学び、望ましいコーチング及びトレーニングの在り方を探求する。各教員の専門スポーツ競技/種目におけるコーチング実践の知、またその背景となる科学的知見を手がかりにして、自身の専門スポーツ競技/種目における先行研究の調査、コーチング実践などを行う。	研究領域に含まれているスポーツ種目を専門とする学生は、受講できない。 オンライン(同時双方向型)
OATP527	卓球コーチング総合演習	4	1.0	1	秋AB	火4	野中 由紀	卓球の特性とコーチングに関する文献資料および実習からコーチング実践力を学ぶ。	卓球経験者が望ましい。 対面
OATP530	コーチングキャリア形成支援実習(インターンシップ含む)春	3	1.0	1・2	春C夏季休業中	随時	インターンシップ担当教員	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、プロスポーツクラブ、学校における授業や部活動、スポーツ施設など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「コーチングインターンシップ」と同一。
OATP531	コーチングキャリア形成支援実習(インターンシップ含む)秋	3	1.0	1	秋C春季休業中	随時	インターンシップ担当教員	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、プロスポーツクラブ、学校における授業や部活動、スポーツ施設など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「コーチングインターンシップ」と同一。
OATP142	スポーツリスクマネジメント論	1	1.0	1	秋AB	火4	齋藤 健司	スポーツ活動におけるリスクマネジメント理論の応用を検討するとともに、スポーツ事故の法的責任、安全対策および事故防止策についての理解を深める。 リスクマネジメントの枠組み、プロセスなどの理論とそのスポーツへの応用、体育・スポーツ事故の統計データと事故原因、突然死、頭部外傷、脳震盪、熱中症、溺水事故、自然災害などの原因と対策、中止基準、健康調査、スポーツ事故の法的責任、スポーツ施設の法的責任、免責同意書等の法的防御書類などについて、事故事例及び判例を交えて解説する。	対面
OATP540	競技マネジメント論	1	1.0	1	秋B	集中	山口 香, 安藤 梢, 清野 隼	国内外のスポーツ競技団体、スポーツリーグ組織、スポーツクラブ・チームを対象にマネジメントの視点から検討し、スポーツ関係組織・機構の経営に関する基本的な知見を学習するとともに、当該領域における当面の問題を明らかにし、基本的研究課題を理解する。	対面
OATP541	舞踊上演マネジメント論	1	1.0	1	春AB	水2	平山 素子	舞踊公演やイベントの企画・運営を取り扱い、過去に行われた舞踊公演の例に、実情や問題点を検証する。また、現在、活発に行われている舞踊公演の仕組みや、様々な形態のイベントについて学ぶ。さらに、独自のイベントを企画・運営するための知識として、イベントに関わる経済的問題、様々な助成制度とその活用方法を学ぶ。	対面
OATP110	フェアプレイ論	1	1.0	1・2	秋C	火5,6	深澤 浩洋	フェアネスの歴史的概観やフェアプレイを奨励する運動を踏まえ、フェアプレイが主張される意味について、複数の価値観、道徳観から考察する。また、フェアプレイを奨励する運動に言及する。実際にフェアプレイに徹するスポーツパーソンを育成するにはどうしたらよいか、どのようにフェアプレイ教育を展開していけばよいかということについて考察し、自分なりの見解を論理的に展開できることを目標とする。 フェアネスの概念、スポーツのルールとエトス、フェアプレイの歴史、フェアプレイをめぐる問題の語られ方(個人と組織)、アンフェアの背景、フェアプレイキャンペーン、フェアプレイ奨励の方策、フェアプレイ教育の構想	対面(オンライン併用型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP214	スポーツ心理学	1	1.0	1	秋A	集中	両宮 怜, 國部 雅大	アスリートの心理サポート現場での心理的諸問題の解説ならびに課題への対処方法について概説する。 授業項目: スポーツ心理学(臨床スポーツ心理学)の歴史と概観、心理サポートのアプローチ、スポーツメンタルトレーニングの概要、スポーツカウンセリングの概要、実践と研究、心理臨床学的方法、タレント発掘、青年期におけるスポーツ経験と人格形成、スポーツ傷害と心理(事例中心)、メンタルトレーニング事例、アスリートの相談事例	対面(オンライン併用型)
OATP302	スポーツ生理学特講	1	1.0	1	春AB	水2	武政 徹, 藤井 直人	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環及び体温調節系の役割について理解するため、以下のキーワードに関連して解説する。 骨格筋系のキーワード: 重村式トレーニング法、筋肥大、遺伝子ドーピング、サルコペニア、冬眠、レーシングパフォーマンスを上げる遺伝子、老化を遅らせる運動 呼吸循環系のキーワード: ガス交換、酸素摂取量、血管調節、発汗調節、高地トレーニング、暑熱順化、水分調節	対面 AT必修科目
OATP304	スポーツ栄養学特講	1	1.0	1・2	春AB	水1	麻見 直美, 下山 寛之	時代に即したスポーツ・運動栄養学への理解を深めるために、運動(身体活動)、トレーニング、スポーツに関連した栄養、食生活、食事摂取基準、酸化ストレス、抗酸化ビタミン、エネルギー代謝、糖代謝、脂質代謝、タンパク代謝、骨(フィーマールアスリートトライアドを含む)、貧血、水分代謝、休養(睡眠・時差)などのトピックスを取りあげて、講義を行う。加えて、スポーツ栄養の今日的現場課題について問題理解と解決策検討について議論する。	オンライン(対面併用型)
OATP401	運動器のしくみと働き(基礎編)	1	1.0	1・2	春AB	木4	平田 浩祐	運動器を構成する骨格、筋、神経系の概要を学ぶ。生物の形態は、その機能と深いかわりを持っている。運動において関節の構造は大切であり、関節が運動を「制限」することによって目的とした運動が実現される。運動器にはさらに、腱、靭帯も重要な要素としてかかわっている。神経系は、これらの特性も考慮して筋に指令を出している。このようなことがらについて、詳細を解説していく。	対面 AT必修科目
OATP403	スポーツ用具と動きのしくみ	1	1.0	1・2	春AB	金2	小池 関也	スポーツ用具の性能向上のためのしくみについて紹介するとともに、パフォーマンス実現のための動きのしくみ(メカニズム)について解説する。用具として、各種打具、シューズ、各種ボール、水着などを例に挙げ、パフォーマンスに関係する各種特性について、物理的な現象面あるいは生体力学的な視点から解説する。つぎに、スポーツ動作の各種分析手法を紹介したのちに、これらの分析手法を活用して得た各種動作の分析結果から、スポーツ動作における動きのしくみについて解説し、パフォーマンスの発揮メカニズムについて紹介する。	対面
OATP410	アスレティックコンディショニング論特講	1	2.0	1	秋AB	月5,6	福田 崇, 渡部 厚一, 井汲 彰, 竹村 雅裕, 眞下 苑子	競技力向上を目的としたスポーツ傷害予防やコンディショニングの課題と方法論を多面的に解説する。	対面 AT必修科目

系列科目(ナショナルリーディングコーチ養成)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP501	コーチングのバイオメカニクス	1	1.0	1	秋AB	月3	榎本 靖士	スポーツの技術やトレーニングを考えるための基礎となるバイオメカニクスの諸原則、動作の改善ループの考え方とその応用法、バイオメカニクスデータの解釈などについて解説し、これらの知識を動作の改善に活用するための基礎的能力を身につけることを学習目標とする。具体的には、スポーツ技術のバイオメカニクスのとらえ方、力学的エネルギー・効率・有効性指数の算出法の解説、選手の動きを評価・診断・改善するためのバイオメカニクスの知識の重要性の解説などを通して、客観的知識を基礎とするコーチングについて学習させる。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP502	トレーニング学	1	2.0	1	春AB秋AB	木1	前村 公彦, 谷川 聡	スポーツトレーニングを推進するための適切な目標と課題の設定法、課題解決法や手段の選択・創造法、時間資源と時系列的な関連性を考慮した計画立案法、効果的なトレーニング実践法、トレーニング効果のアセスメント法に関する理論を理解し、高度なトレーニング実践を展開できる知を学習する。また、トレーニング学独自の学領域としてのオリジナリティとその研究方法論について学んでいく。	OASO203と同一。(2023年度まで開講) 対面 AT必修科目
OATP503	コーチング論(事例討議)	1	1.0	1	秋AB	月5	前村 公彦	コーチには、当該スポーツ競技/種目の技術・戦術、トレーニングの指導だけでなく、トレーニング環境を整備したり、多様なステークホルダーと連携し目標を達成していくための能力も求められる。また、その前提となる「コーチング哲学」をどのように構築するかも重要である。本講義では、コーチング現場で活躍中のコーチを招いて、コーチング実践の場における現状と課題を知り、それらをもとに学生相互で討議することによって将来のコーチングに資する実践知の獲得をめざす。	対面
OATP504	身体技法論	1	1.0	1	秋AB	金4	吉田 美和子, 本谷 聡	目標:気功、呼吸法、武術、整体法、体操、ボディワーク等の身体技法について理解し、それらと体育やスポーツとの関係や意味について、個々の身体技法として活用する方法を知る。 授業計画:東洋の身体知(embodied wisdom)に対し、西洋の身体知ともいうべきソマトイクス(Somatics-身体を内側から捉える理論)の臨牀的実践技法であるボディワークをテーマに、その理論的背景を学びながら、技術(art)の習得を図る。体験的解剖学に基盤つき、基本的な身体の構造や機能を学びながら、実際に動き(movement)、触れ(touch)、声を出し(vocalization)、身体の経験や気づきを言語化し(verbalization)討議を加える。前半は骨格系、後半は内臓を中心に取り上げる。	対面
OATP505	身体表現論	1	1.0	1・2	春AB	火2	寺山 由美	<私>にとって身体とは何かを問うことを通して、「身体表現」について考察する。自らの「身体表現」と他者の「身体表現」の違いを捉え、私たちがどのようにコミュニケーションを成立させているのかを検討する。特に、ダンスの場面における事例を取り上げ、「身体表現」の特性について考える。また、身体の持つ力に着目し、「身体表現」という括りでダンスとスポーツを捉えることで、体育・スポーツ学を多角的に検討することを試みる。	対面 対面かオンライン(同時双方向型)かを受講者に連絡する。
OATP506	スポーツ運動学	1	1.0	1	春AB	木2	中村 剛	発生運動学としてのスポーツ運動学の学問成立の経緯、基本概念、運動の分析法を講義して、運動の実践現場および研究においてもスポーツ運動学の意義、価値の理解を深める。具体的には、体育・スポーツ領域において使われている運動の概念についての整理、運動をゲシュタルト(運動ゲシュタルト)として認識することの重要性、現場において取り上げられる動きの質の問題、実際の動きを取り上げる際に重要になる生命的な時空間の問題、そして、「できる」ということを考える際に不可欠な身体知の問題、その「できる」を支える「動感」の問題、動きの意味と価値の問題、スポーツ運動学と現象学の関係、などについて講義する。	対面 AT必修科目
OATP601	高度コーチングディスカッションI	2	1.0	1	通年	随時	中山 雅雄, 岡田 弘隆, 河合 季信, 谷川 聡, 山田 永子, 平岡 拓晃, 野中 由紀, 新竹 優子, 研究指導教員	様々な種目での国際経験に基づくコーチングディスカッションを通して、コーチング基礎能力、研究における基礎能力の向上を図る。	2025年度以降入学者対象。ナショナルリーディングコーチ養成系列所属の学生に限る。
OATP602	高度コーチングディスカッションII	2	1.0	2	通年	随時	中山 雅雄, 岡田 弘隆, 河合 季信, 谷川 聡, 山田 永子, 平岡 拓晃, 野中 由紀, 新竹 優子, 研究指導教員	様々な種目での国際経験に基づくコーチングディスカッションを通して、コーチングの能力、研究能力の向上を図る。	2025年度以降入学者対象。ナショナルリーディングコーチ養成系列所属の学生に限る。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP642	高度スポーツ指導者の英語会話	2	3.0	1					2024年度以前入学者対象 2026年度開講せず。 2027年度以降も開講せず。
OATP643	日本文化論(宗教, 思想, 古典芸能など)	1	1.0	1	秋C 夏季休業中	集中	酒井 利信, 櫻井 崇, 東 俊二郎	スポーツ界のリーダーとして世界で活躍するためには、グローバル化社会における自文化のオリジナリティーを自覚することも必要である。こういった考えのもと、日本文化論として宗教、思想、古典芸能などを取り上げ、フィールドワークも含めつつ学習し、日本文化の粋を理解する。 本授業では特に宗教の中でも日本古来の民俗信仰であるところの神道に焦点をあて、武神タケミカヅチを祀る鹿島神宮ならびに筑波山の麓に鎮座する五所駒瀧神社の宮司に特別にお願いをして、フィールドワークを含めながらレクチャーをしていただく。	9月と1-2月に実施。学外実習ありご神域での授業であるため、正装である必要はないが様のある服装で参加すること。 対面
OATP644	高度スポーツ指導者の実践英語演習	2	1.0	2				To plan and conduct sport activities	2024年度以前入学者対象 2026年度開講せず。 2027年度以降も開講せず。
OATP645	国際経験プレゼンテーション演習	2	1.0	1・2	通年	随時	野中 由紀	自身の国際経験や各国代表としての経験を整理し、他者に適切に伝える能力を身につける。	2025年度以降入学者対象。ナショナルリーディングコーチ養成系列所属の学生に限る。
OATP646	スポーツ指導者の英語実技	2	1.0	1	春AB	随時	松尾 博一, 河合 季信, 野中 由紀	英語による実技指導の現場を通して、英語でスポーツ指導ができるようになるための基礎を学修する。	2025年度以降入学者対象。ナショナルリーディングコーチ養成系列所属の学生に限る。
OATP647	スポーツ指導者の英語実技実践	2	1.0	2	通年	随時	ラクワール ランディープ, 山田 永子	英語によるスポーツ指導実践を通して、国際的な集団に対する実技指導の方法を学修する。	2025年度以降入学者対象。ナショナルリーディングコーチ養成系列所属の学生に限る。
OATP510	体操コーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	金3	長谷川 聖修, 本谷 聡	体操領域の特性を理解するとともに、各種のねらいや対象に応じた徒手体操や手具体操の実践力と指導力を身に付ける。	対面
OATP511	体操競技コーチング総合演習	2	1.0	1	秋AB	金3	金谷 麻理子	体操競技および器械運動に関する国内外の文献講読と実習を行い、それぞれの種目の基本技の技術と指導方法、安全に関する配慮などについて理解する。器械運動の内容に関しては、マット運動、とび箱運動、平均台運動、鉄棒運動の基本的な技を身に着けるとともに、効果的に指導する方法を学習する。また、体操競技の内容については、男子6種目(ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒)、女子4種目(ゆか、平均台、段違い平行棒、跳馬)のそれぞれについて種目特性を理解するとともに実習を通して基本技術と指導法を学習し、専門家として必要な資質を身に着ける。	対面
OATP512	陸上競技コーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	金5	大山 下 圭悟, 木越 清信	陸上競技の技術、トレーニング、指導法について、国内外の文献をもとにして、体育的側面及び競技的側面から有効なコーチングへの手がかりを検討する。	対面
OATP513	水泳競技コーチング総合演習	2	1.0	1	秋AB	木3	仙石 泰雄	水泳競技(競泳・水球・シンクロ・飛込み)に関するバイオメカニクスおよび運動生理学的な測定手法を学習し、実験プロトコルを作成した上で各種測定を実施し、正確にデータを収集する能力の獲得を目指す。また、実験で得られたデータの分析方法も学習し、測定データを正しく解釈する能力の獲得を目指す。	対面
OATP514	バレーボールコーチング総合演習	2	1.0	1	秋AB	木3	中西 康己, 秋山 央	国内外の専門文献や研究書を講読し、バレーボールのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バレーボール競技者に必要な体力要素、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、バレーボールのコーチとしての基礎的資質を高める。	対面
OATP515	バスケットボールコーチング総合演習	2	1.0	1・2	春AB	木3	池田 英治	バスケットボールの複雑な競技特性に言及する国内外の専門文献や研究書の精読を通じて、コーチングの前提要件たる理論知識の獲得を図る。併せて、実際のコーチング場面で直面する諸問題を解決するための方策について発表・討議することで、バスケットボール競技のコーチングに関わる基礎的な課題についての理解を深める。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OATP516	ハンドボールコーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	金4	會田 宏, 藤本 元, 山田 永子	ハンドボールのコーチング実践に必要な理論の学習とコーチング実践活動を通して、さまざまな問題に対処できる専門的な指導力を身につける。	対面
OATP517	サッカーコーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	金4	中山 雅雄	演習形式でサッカーのコーチングに関わる理論の理解を深めると同時に、コーチングの実践を通してサッカーコーチとしての能力を高める。授業の前半は主に講義形式で「サッカーの構造」「プレーの原則」「タレント発掘」「サッカーのコーチング」等について整理する。その後、各自でコーチングプランを作成し、受講者間でそのプランを洗練する作業をおこなう。後半ではそのプランに基づきコーチング実践と省察によって自身のコーチング能力を改善する。	対面
OATP518	ラグビーコーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	木3	嶋崎 達也	授業は演習形式とし、ラグビーコーチングの現場で直面する様々な問題に対して、その対処法や考え方について学び、各自の指導論・指導法を構築していくことを目的とする。授業の前半ではラグビーのコーチングに必要な理論(指導法、ゲーム分析の視点、パフォーマンス評価、スカウティングなど)を学習した後、後半から各自で設定したテーマに対するコーチングの実践活動を行い、コーチとしての指導力の向上を図るものとする。	対面
OATP519	テニスコーチング総合演習	2	1.0	1	秋C	水1,2	三橋 大輔	国内外の専門文献や研究書を講読し、テニスのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バレーボール競技者に必要な体力要素、ストローク、ポレー、サービス動作の技術指導のやりかた、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、テニスのコーチとしての基礎的資質を高める。	履修前に教員へ要相談
OATP520	バドミントンコーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	火4	吹田 真士	国内外の専門文献や研究書を講読し、バドミントンのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バドミントン競技者に必要な体力要素、ストローク、ポレー、サービス動作の技術指導のやりかた、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、バドミントンのコーチとしての基礎的資質を高める。	対面
OATP521	野球コーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	火4	川村 卓, 奈良 隆章	野球のコーチングに関して、チームのリクルート、マネジメントの仕方及び戦略、戦術、戦法、試合の進め方、投球および打撃動作の観察方法、さらには走塁および守備の考え方、改善方法、チーム練習方法、年代別の課題などについて学習することで、野球の指導者としての資質を高める。	専門的な内容になるので、野球経験者に限る。実施形態:要相談
OATP522	柔道コーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	火4	岡田 弘隆	柔道における技の分類について説明し、理解させる。投技(手技16本、腰技10本、足技21本、真捨身技5本、横捨身技16本)、固技(抑込技10本、絞技12本、関節技10本)全般について実習するとともに、併せてその指導法についても学び、実践する。柔道のすべての技についてその理合を説明し、それを理解させた上で実践させるとともに、効果的な指導法について、各自で考えさせた上で必要に応じて補足説明を行い、実践させる。それにより、柔道の指導者としての基礎的資質を高めることを目的とする。	対面
OATP523	剣道コーチング総合演習	2	1.0	1	秋AB	金4	鍋山 隆弘, 有田 祐二	剣道の試合・審判規則について学習し、審判の理論と実践能力を高める。	対面
OATP524	弓道コーチング総合演習	2	1.0	1	秋AB	火3	松尾 牧則	日本の伝統的運動文化としての「弓道」の特性を理解するとともに、弓道指導における基礎・基本となる「基本体(基本の姿勢・基本の動作)」「射法八節」についてその理論学習と実践を通じて弓道コーチングの実際を学習する。「基本の姿勢」「基本の動作」を合わせた「基本体」を正しく身につける。また、弓射の基本法則である「射法八節」の理論を理解し、正しく身につけて実践する。また初級者への示範・指導ができるようにする。対象に応じた指導法を理解し、安全かつ効果的に学習できる指導法を理解・習得する。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP525	舞踊指導総合演習	2	1.0	1	秋AB	金4	寺山 由美	舞踊(ダンス)教育における内容の中でも表現・創作ダンス(モダンダンス)とリズム系ダンスを中心に、各々の特性と技法、指導法、上演に関する理解を深めるとともに、実習を通して基礎的、応用的な能力を養う。舞踊における身体、イメージ、リズム、動きの関係について、多様なテーマ(課題)から即興的に表現・創作するとともに、舞台に向けたダンス作品を創作、上演する。自らの踊る力を養成すると共に、どのように学習者の実態を捉えた指導法についても学んでいく。	対面
OATP526	スポーツコーチング総合演習	2	1.0	1	春AB	火4	前村 公彦, 松元剛, 河合 季信, 谷川 聡, 木内 敦詞	個別研究領域に含まれていないスポーツ競技/種目を専門とする学生を対象に、種目横断的にその指導法についての理論や指導実践を学び、望ましいコーチング及びトレーニングの在り方を探求する。各教員の専門スポーツ競技/種目におけるコーチング実践の知、またその背景となる科学的知見を手がかりにして、自身の専門スポーツ競技/種目における先行研究の調査、コーチング実践などを行う。	研究領域に含まれているスポーツ種目を専門とする学生は、受講できない。 オンライン(同時双方向型)
OATP527	卓球コーチング総合演習	4	1.0	1	秋AB	火4	野中 由紀	卓球の特性とコーチングに関する文献資料および実習からコーチング実践力を学ぶ。	卓球経験者が望ましい。 対面
OATP631	プログラム特別キャリア形成支援実習(インターンシップ含む)春	3	3.0	1・2	春C夏季休業中	随時	インターンシップ担当教員	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、日本代表、プロスポーツクラブ、地域スポーツクラブなど)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「プログラム特別インターンシップ」と同一。
OATP632	プログラム特別キャリア形成支援実習(インターンシップ含む)秋	3	3.0	1	秋C春季休業中	随時	インターンシップ担当教員	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、日本代表、プロスポーツクラブ、地域スポーツクラブなど)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	2025年度までの「プログラム特別インターンシップ」と同一。
OATP142	スポーツリスクマネジメント論	1	1.0	1	秋AB	火4	齋藤 健司	スポーツ活動におけるリスクマネジメント理論の応用を検討するとともに、スポーツ事故の法的責任、安全対策および事故防止策についての理解を深める。 リスクマネジメントの枠組み、プロセスなどの理論とそのスポーツへの応用、体育・スポーツ事故の統計データと事故原因、突然死、頭部外傷、脳震盪、熱中症、溺水事故、自然災害などの原因と対策、中止基準、健康調査、スポーツ事故の法的責任、スポーツ施設の法的責任、免責同意書等の法的防御書類などについて、事故事例及び判例を交えて解説する。	対面
OATP540	競技マネジメント論	1	1.0	1	秋B	集中	山口 香, 安藤 梢, 清野 隼	国内外のスポーツ競技団体、スポーツリーグ組織、スポーツクラブ・チームを対象にマネジメントの視点から検討し、スポーツ関係組織・機構の経営に関する基本的な知見を学習するとともに、当該領域における当面の問題を明らかにし、基本的研究課題を理解する。	対面
OATP541	舞踊上演マネジメント論	1	1.0	1	春AB	水2	平山 素子	舞踊公演やイベントの企画・運営を取り扱い、過去に行われた舞踊公演の例に、実情や問題点を検証する。また、現在、活発に行われている舞踊公演の仕組みや、様々な形態のイベントについて学ぶ。さらに、独自のイベントを企画・運営するための知識として、イベントに関わる経済的問題、様々な助成制度とその活用方法を学ぶ。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP110	フェアプレイ論	1	1.0	1・2	秋C	火5,6	深澤 浩洋	フェアネスの歴史的概観やフェアプレイを奨励する運動を踏まえ、フェアプレイが主張される意味について、複数の価値観、道徳観から考察する。また、フェアプレイを奨励する運動に言及する。実際にフェアプレイに徹するスポーツパーソンを育成するにはどうしたらよいか、どのようにフェアプレイ教育を展開していけばよいのかということについて考察し、自分なりの見解を論理的に展開できることを目標とする。 フェアネスの概念、スポーツのルールとエトス、フェアプレイの歴史、フェアプレイをめぐる問題の語られ方(個人と組織)、アンフェアの背景、フェアプレイキャンペーン、フェアプレイ奨励の方策、フェアプレイ教育の構想	対面(オンライン併用型)
OATP214	スポーツ心理学	1	1.0	1	秋A	集中	雨宮 怜, 國部 雅大	アスリートの心理サポート現場での心理的諸問題の解説ならびに課題への対処方法について概説する。 授業項目: スポーツ心理学(臨床スポーツ心理学)の歴史と概観、心理サポートのアプローチ、スポーツメンタルトレーニングの概要、スポーツカウンセリングの概要、実践と研究、心理臨床学的方法、タレント発掘、青年期におけるスポーツ経験と人格形成、スポーツ傷害と心理(事例中心)、メンタルトレーニング事例、アスリートの相談事例	対面(オンライン併用型)
OATP302	スポーツ生理学特講	1	1.0	1	春AB	水2	武政 徹, 藤井 直人	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環及び体温調節系の役割について理解するため、以下のキーワードに関連して解説する。 骨格筋系のキーワード: 重村式トレーニング法、筋肥大、遺伝子ドーピング、サルコペニア、冬眠、レーシングパフォーマンスを上げる遺伝子、老化を遅らせる運動 呼吸循環系のキーワード: ガス交換、酸素摂取量、血管調節、発汗調節、高地トレーニング、暑熱順化、水分調節	対面 AT必修科目
OATP304	スポーツ栄養学特講	1	1.0	1・2	春AB	水1	麻見 直美, 下山 寛之	時代に即したスポーツ・運動栄養学への理解を深めるために、運動(身体活動)、トレーニング、スポーツに関連した栄養、食生活、食事摂取基準、酸化ストレス、抗酸化ビタミン、エネルギー代謝、糖代謝、脂質代謝、タンパク代謝、骨(フィーマルアスリートトライアドを含む)、貧血、水分代謝、休養(睡眠・時差)などのトピックスを取りあげて、講義を行う。加えて、スポーツ栄養の今日的現場課題について問題理解と解決策検討について議論する。	オンライン(対面併用型)
OATP401	運動器のしくみと働き(基礎編)	1	1.0	1・2	春AB	木4	平田 浩祐	運動器を構成する骨格、筋、神経系の概要を学ぶ。生物の形態は、その機能と深いいかわりを持っている。運動において関節の構造は大切であり、関節が運動を「制限」することによって目的とした運動が実現される。運動器にはさらに、腱、靭帯も重要な要素としてかかわっている。神経系は、これらの特性も考慮して筋に指令を出している。このようなことから、詳細を解説していく。	対面 AT必修科目
OATP403	スポーツ用具と動きのしくみ	1	1.0	1・2	春AB	金2	小池 関也	スポーツ用具の性能向上のためのしくみについて紹介するとともに、パフォーマンス実現のための動きのしくみ(メカニズム)について解説する。用具として、各種打具、シューズ、各種ボール、水着などを例に挙げ、パフォーマンスに関係する各種特性について、物理的な現象面あるいは生体力学的な視点から解説する。つぎに、スポーツ動作の各種分析手法を紹介したのちに、これらの分析手法を活用して得た各種動作の分析結果から、スポーツ動作における動きのしくみについて解説し、パフォーマンスの発揮メカニズムについて紹介する。	対面
OATP410	アスレティックコンディショニング論特講	1	2.0	1	秋AB	月5,6	福田 崇, 渡部 厚一, 井汲 彰, 竹村 雅裕, 眞下 苑子	競技力向上を目的としたスポーツ傷害予防やコンディショニングの課題と方法論を多面的に解説する。	対面 AT必修科目

研究基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
------	-----	------	-----	--------	------	-----	------	------	----

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OA00103	研究倫理	4	1.0	1 - 5	春BC	随時	岡林 浩嗣, 大須賀 壮	研究活動に従事する上で踏まえるべき研究倫理の基礎を、具体的事例を交えて講義する。研究不正(FFP)、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスなどを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、科学技術政策、研究助成のしくみ、申請や審査のしくみなどについても触れる。 本科目は講義を主体としつつ、講義の間に演習(個別演習・グループ演習)を交互に挟む構成とする。講義においては、研究倫理と研究公正に関連する基本概念を整理すると共に、研究不正(FFP)、研究費の不正使用、その他のコンプライアンスに関わる問題などを取り上げる。また、これらを理解するための前提となる、学術研究活動をとりまく環境の変化や、科学研究費の申請や審査のしくみなどについても触れる。特に特定不正行為に関しては具体的事例を元にその原因や背景を解説し、受講者が研究活動を行う上で必要な対策について具体的に考える機会を与える。	オンライン(オンデマンド型)
OA00202	Presentations for General Audiences	4	1.0	1 - 5				本講義ではコミュニケーションの基礎理論、英語でのパブリック・スピーキング、プレゼンテーションの技術の修得を目標とする。また、学んだ理論・技術を応用活用する経験として、実際に聴衆を前にしたプレゼンテーションをおこなう。	This course is limited to 30 people. If there are more than 30 people at the course registration deadline, a lottery will be held, however priority will be given to students enrolled in the Certificate Program in Science Communication. 英語で授業。2026年度開講せず。対面
OAS0205	コーチング学分野研究方法論	1	1.0	1・2	春AB	NT	前村 公彦, 川村 卓, 大山 卞 圭悟, 増地 克之, 野中 由紀, 渡邊 仁, 中村 剛, 山田 永子, 角川 隆明	コーチング学の様々な研究方法に関して方法別に学ぶ。コーチングを学問として捉えるには様々な分野研究方法を学ぶ必要がある。学際的に応用できるように、様々な角度から学習を行う。	OATP003と同一。(2023年度まで開講) オンライン(オンデマンド型)
OATP001	体育・スポーツ学分野研究方法論	1	1.0	1・2	秋AB	金2	深澤 浩洋, 下竹 亮志, 仲澤 眞, 澤江 幸則, 國部 雅大, 大石 純子, 大林 太朗, 雨宮 伶, 坂本 拓弥	人文社会科学の研究にとって必要な知識基盤として、様々な研究方法論の基礎を学習する。論文執筆のために必要な手順について理解し、人文社会科学の研究手法論について興味を持ち、理解するための基礎を自ら学んでいくことを目的とする。	オンライン(オンデマンド型) 一部対面で実施する。
OATP002	健康体力学分野研究方法論	1	1.0	1・2	春AB	月1	中田 由夫, 小池 関也, 門間 貴史, 麻見 直美, 榎本 靖士, 竹村 雅裕, 岡本 正洋, 松井 崇, 武政 徹	体育学における健康体力学分野の研究に必要な概念と研究方法について学び、自ら研究計画を立案できる基礎を作る。	オンライン(オンデマンド型)
OATP010	研究ワークショップ	2	1.0	1				スポーツ・健康科学分野のテーマに関する研究について、各自の研究をまとめて学会等において発表ができるようになることを目標として、必要な知識と具体的方法を、講義、演習、発表練習およびディスカッションを通して学ぶ。	2026年度開講せず。対面 2027年度以降も開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OATP011	研究基礎共通実習(PBL)	3	1.0	1・2	春AB	月5	川村 卓, 大林 太朗, 松尾 博一, 片岡 千恵	本授業は、日本国内および国際的な社会課題を発見し、体育・スポーツ・健康の分野から課題解決のためのプロジェクトを企画する過程を、グループでの協働作業を通して学ぶことを目的とする。授業は、チューターとしての教員と少人数のグループを構成する学生によって進められる。具体的にはまず、社会課題を整理するとともに、日本の体育・スポーツ界における施策や取組、東京2020大会レガシーについて共通理解する。そして、焦点を当てたい社会課題について各自が自分の意見を述べた後、グループ学習によってそれぞれの課題の解決に向けたプロジェクトを企画し、発表する。学生はこうした過程を通して、発言者の意図を理解し、グループの目的を達成するために効果的なコミュニケーションのあり方を学ぶ。	対面
OATP012	健康・スポーツ科学のための統計学	1	2.0	1・2	春AB 春C	水1 集中	角田 憲治	健康科学研究とスポーツ科学研究での実験と調査から得られるデータ分析の手法を実践し、数理モデルなどの理論を理解することを通して、研究データの統計分析の実践技能を養う。 基礎的および先端的な健康・スポーツ科学研究に用いる統計的分析法について概説する。	対面
OATP013	健康・スポーツ科学のための英語上級	1	1.0	1・2	春AB	木1	ラクワール ランディープ	体育並びにスポーツ科学に関連した、より高度な英語の読解力並びに表現力を身につける。 (Objective of this course is to improve writing listening, and speaking ability in English in Physical Education and Sport Science at an advanced level.)	英語で授業。 対面
OATP021	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	1	1.0	1・2	春B	集中	永田 真一, ブロイス ダニエル	本講義では、主に英国やヨーロッパにおける事例を紹介しながら、スポーツ政策の国際的動向について把握するとともに、それらの諸実践を分析するための理論的枠組みについて理解することを目的とする。具体的には、教員による講義および履修学生によるプレゼンテーションを通して、開発と平和のためのスポーツ、エリートスポーツ、オリンピック・パラリンピックのレガシーなどに関わる政策を対象としながら、スポーツ政策の国際的動向と課題、そして今後の可能性について学修する。	筑波開設科目。 OAVA106と同一。(2023年度まで開講) 英語で授業。 オンライン(オンデマンド型) オンライン(同時双方向型)
OATP022	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	1	1.0	1・2	春AB	水2	松元 剛, 中山 紗織, 和久 貴洋, 渕上 真帆, 渡部 厚一, 福田 崇	トレーニング方法、情報戦略、国際的な動向など、指導者の質保障を多面的にとらえ、指導者育成の観点からコーチ教育について考える。	筑波開設科目。 OAVA110と同一。(2023年度まで開講) 英語で授業。 対面
OATP023	Management and Organization (経営マネジメント論)	1	1.0	1・2	春C	集中	永田 真一, 矢沢 大悟	スポーツ国際開発学の理論と実践を概観し、国際的・社会的・文化的な課題解決に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。 講義では、特に開発課題に焦点化して、諸課題の特性と持続可能な平和的社会的実現に向けたスポーツの役割に関して討論形式で学ぶ。 更に、スポーツ国際開発(IDS)のマッピング、NGOでのIDS活動、組織マネジメント理論、ケース探索と理論的適応などを議論を踏まえて検討する。	筑波開設科目。 OAVA202と同一。(2023年度まで開講) 英語で授業。 オンライン(オンデマンド型) オンライン(同時双方向型)
OATP024	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	1	1.0	1・2	春C	集中	中山 紗織, 板垣 啓子	開発援助の実践力を高めるべくロジックモデルを改変された「プロジェクト・サイクル・マネジメント」に沿った計画・評価の手法を学ぶ。 ・基礎講座:国際協力のトレンド、プロジェクトのPDCAサイクル ・実践講座:ケールスタディーを用いた実践的検討:プロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)、プロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)、評価・モニタリング手法	筑波開設科目。 OAVA203と同一。(2023年度まで開講) 英語で授業。 対面
OATP041	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	1	1.0	1・2	秋AB	木1	清水 諭, 白井 宏昌	スポーツ社会学における理論と実践の研究を基礎にして、スポーツを通じた国際開発と平和構築に関する批判的思考力を身に着ける。 スポーツと身体に関する具体的事例について討議を行い、権力の作用について学習する。IDS・SDPの理論について理解し、実践に関する批判的思考力を身に着ける。	筑波開設科目。 OAVA104と同一。(2023年度まで開講) 英語で授業。 対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OAVA501	JSC Seminar (JSCセミナー)	2	1.0	1・2	春C秋ABC	随時	和久 貴洋, 佐藤 貴弘, 大石 純子	日本スポーツ振興センターが開催する研修およびセミナーに参加し、レポート作成やその他の業務を通じて学習する。事前準備として、学生は自身の学術的興味や目的に従って参加するセミナーを選択する。セミナーは1日から数日間のもので多様であるので、各自の都合に合わせて途中でリタイアすることが無いように準備する。セミナーの具体例として、国際スポーツイベントのレガシーに関するもの、ソーシャルメディアの利用に関するもの、スポーツライフに関するものなどがある。事後には、所定の手順に従って報告書をまとめて指導をうける。	筑波開設科目。OATP031と同一。(2023年度まで開講)
OAVA502	JSC Project (JSCプロジェクト)	2	1.0	1・2	春C秋ABC	随時	和久 貴洋, 佐藤 貴弘, 大石 純子	日本スポーツ振興センターで展開されている事業プロジェクトに参加し、事業運営、マネジメントの実践について学ぶ。事前準備として、提示されたプロジェクトリストの中から、学生自身の興味関心に従ってプロジェクトを選択し、所定の申請手続きと諸指導を受ける。実習期間中は、プロジェクトの推進を実践的に経験学習する。プロジェクトの例としては、国際的なイベント入札に関するもの、政策情報の収集と分析に関するもの、国内におけるスポーツタレントの発掘と開発、選手育成、コーチング、スポーツインテグリティプロジェクトなどがある。事後指導としては、経験学習を振り返りかえってレポートにまとめる。	筑波開設科目。OATP032と同一。(2023年度まで開講)
OAVA601	On the Job Practice (Domestic)	3	2.0	1・2	通年	随時	和久 貴洋, 佐藤 貴弘, 大石 純子	日本スポーツ振興センターなどのスポーツおよび国際開発に関連する組織において4週間(1日7時間×4週間)の研修を行う。事前に、指導教員、受け入れ先組織と十分な連絡相談を重ねたのち、受け入れの許諾をえること。許可が下りたら詳細な実習計画書を作成し指導教員の署名捺印を得たのち提出する。実習生調書、保険への加入などの手続きも進めること。実習中は無報酬を原則とし、受け入れ組織の規則や慣習に従って、真摯に実習に努める必要がある。実習中は実習記録を作成する。実習後は、実習記録と実習報告書を所定の手続きを踏まえて提出するとともに、実習先指導者による評価を受け、評価表を大学に提出すること。	筑波開設科目。OATP033と同一。(2023年度まで開講)